

ものがわが國上層部に存在することは實に遺憾至極である。今日の國際情勢の窮迫は全く英米合作といふよりもむしろアメリカの謀略の結果である。その謀略の本家本元たるアメリカに對し媚態を示して一日の安きを偷まんとするは國家百年の大計を忘れたるものといふべきである。日露戦争後より第一次歐洲大戰を経て今日に至れるわが國の國際關係の變遷を看るならば、もし今日わが國が英米との連衡を策して一時の窮狀を救脱し得たりとしても、ドイツ潰滅後のわが國に對する英米の態度が如何にあるべきかはいはずとも明らかである。無敵海軍八八艦隊の完成を粉碎すべくワシントン會議を開いたのはどこの國の策謀によるのであるか。ロンドン會議の目的はいづれにあつたか。英米的世界秩序維持のための謀略は過去數十年の昔よりわが國に苦杯を嘗めさせて來たのである。今にして覺醒せずんばわが國は永久に英米の奴隸國たるに甘んぜねばなるま

吾人はわが國總力戰體制完備の障礙物がいづれにあるかを指摘せんと欲するも能はずして腹ふくるる想ひをしてゐたのであるが、田中兵務局長の議會における言明によつてその一つが判然と國民一般に周知されたことを悦ぶと同時に大東亞における日本の秩序建設完遂のために一億一心

となつて自主獨往の固き決心をもつて邁進し得べき日の來たりたるを祝福したい。

(昭和十六年二月六日工業新聞「工業春秋」欄所載)

四十一 建設的革新の基礎

革新には破壊をともしなふを原則とする。しかしその破壊はより大なる建設の効果によつて餘りある恩澤をもたらすとき破壊であるべきはいふをまたない。昭和維新の標語のもとに遂行さるべき革新にあつても、かゝる建設的革新を目標とする政策がたてられ、その具體的施行が期待さるべきであるにもかゝらず、われらの眼に映ずるものは破壊が多くして建設の少なきを如何ともすることができない。

建設的革新の遂行を可能にするがためには、しかし乍らその基底として國內人心の歸一といふ唯一の重大事が與件的に完成してゐなければならぬ。しかして國內人心の歸一を求めざるがためには政治の指導性が確立してゐることが絶対必要である。すなはち指導者の言動が絶対的な支持を國民から獲得し得るがごときものであるを必須とする。しかるに今日のわが國の現状について

見るに、大政翼賛會の本質さへも明確ならざるとき印象が與へられ、議會における當局の答辯によつても未だ完全に疑義を一掃したとはいへない。かくのごとき問題について判然たる處置が講じ得られないやうでは、國內人心を善導することは絶対に不可能ではないかと思はれる。

曠古未曾有の國難を口にし、國民の奮起を促し、國民大衆はすでに最後の決意までしてゐるときにあたり、政府當局その他上層指導的階層の人々が眞に國民を一切の疑念から解脱せしめ一塊の熱火となつて國難におもむく實踐の途を拓き得ないでは、聖慮を安んじ奉り臣道實踐の誠をいたしたとはいはれない。

經濟新體制の實施にあたつても弱い者いじめに終るがごとき、またなんら生産力向上に役立たないとか、新體制とは不必要に生産配給を阻害することであるがごとく思はしむるとか、種々民心不安を醸成してなんら國民生活發展向上の希望を與へず、暗黒の山野に國民を放逐することき結果を招來するとか、總じて國家總力戰の戦力を弱むる惧れあるごとき方向へ進むことは絶対に避くべきである。

政治の局にあたるものはよろしく建設的惠澤の一層多からんことをのみ希念して明朗潤達なる

氣分を國民に與へ、人心のづからなる歸一を齎すごとき指導性を發揮せんことを切望せざるを得ない。(昭和十六年二月十二日工業新聞「工業春秋」欄所載)

四十一 滿洲企業政策の再検討

滿洲建國の當初においては強度の資本主義修正説が主張されて資本家入るべからずの制札が建てられいはゆる計畫經濟的な企業政策が採用された。しかし資本の稀薄なる滿洲において資本排撃をなしては事業の興隆するはずがなく中途において日産系資本を導入して滿洲重工業會社を創立したが、依然として一業一社の獨占形態を採り政府の指導性を極度に發揮する建前を捨てなかつた。しかるにその後官僚的獨占會社の經營性の貧弱さによつて所期の目的を達成し得ず組織の形式美みのひとり目だつてその内容實績はまつたく計畫のなかばにも達しなかつた缺點にかんがみて、今回その獨占性を棄却して同業數社の競争による經營性の高度化をはかるにいたつたことは遅かりしといへどもなほなざるに勝るといはなければならぬ。

由來官營事業または半官半民企業の非能率的なことは明治初年以來吾人の身をもつて經驗せる

ところである。わが國における官業のもつとも效率的だといはるゝ鐵道にしても、もし民營であつたならば今日以上の發達を遂げてゐたと思はれるし、また煙草の如きもあるひは重要輸出品たるを得たかも知れないのである。わが國の勞働および技術の高能率をもつてしてもすでにかくのごとくであるがゆゑに、勞働および技術の遙かに低率なる滿洲において能率發揮の競争を絶した爲に生産力の擴充ができなかつたのは至極當然である。

しかしあやまちを改るに憚るなかれて、その缺點を認め敢然と滿業獨占の弊風を打破するにいたつた勇氣は絶讚に値するものである。これはひとり鐵、石炭のごとき重要産業についてのみではない、廣くこれを産業の各部門におよぼし國民の企業心を振起しいたづらに國帑を費すの愚を避けて最高の生産効率を發揚せしむべきである。由來官僚の空論と割據主義を新興の天地に移植することは百害あつて一利なく、新天地の開發は活潑なる民間企業者に一任し、官僚はこれに一定の指針を與へて方向をあやまらしめざるやうにつとむるをその職責とすべきであらう。滿業の改組を契機として滿洲の廣大なる地域に五族協和の活潑なる企業が行はれるに至らんことを熱願してやまない。(昭和十六年二月十七日工業新聞「工業春秋」欄所載)

四十三 大政翼賛會をめぐつて

大政翼賛會の性格を決定し、その構成員の純化を行ひ、濫費を戒めるべしとの聲が大であるが、事情に通ぜざる一般大衆にとつては忠良なる國民を指導すべき重任を負ふ大政翼賛會の構成員にたいし純化を必要とする理由を解するに苦しむと同時に、すでに大政翼賛の國民運動としての性格は決定されてをり一身一家の榮達を念とせざる天下の國士を選抜して採用せるかぎり、費用をみだりに消費するがごときことのあるべきはずはないと信じてをるのである。然るにかゝる要望の聲のいまだ衰へざるは、煙のあるところ必らず火ありの諺のごとく、なんらかの警戒を要する事態の伏在を疑はざるを得ない。

仄聞するところによれば翼賛會は職員の特遇問題あるひはその本部における日常の種々なる雑事などから見て挺身難におもむく先導者の本據と目すべきものはないといはれる。筆者はもちろんかゝる俗論に耳を傾けるものではないが、國難に當つて國民を啓發指導すべき翼賛會の人たちが寸毫といへども他の指摘を受くるがごときことがあつてはならないと信ずる。

筆者は或るとき翼賛會關係者に次のやうなことを話した。すなはち翼賛會關係者は過去において些少なりとも言行のうへに瑕疵があつてはならないし、將來においてももちろんさうであり得る人でなければならぬ。例へば一度でも遊里に足踏み入れたやうな人はその資格なしとすべきである。然るに某氏はこれに答へて、そのやうなことをいつては有資格者は相當年輩の者の間からは見出し得ないといつた。

實に眞の指導者を發見することは難事中の難事であるが、しかしかゝる稀有の人であつてこそ本當の指導的役目を果し得るのである。近衛總裁は須らく稀有の人材を簡拔して眞の指導性を發揮し得るやう翼賛會をの一層の改善を圖るべきである。しからば費用も要せず性格の問題も起らず、構成員淘汰の必要もなくなるであらう。(昭和十六年二月十三日工業新聞「工業春秋」欄所載)

四十四 日獨伊三國の經濟提携

日獨伊三國同盟成立に當り三國間に同盟條約の趣旨を具體化するため三國混合委員會を三國の各首都に設けるはずであつた。この混合委員會は經濟問題に關聯しては各國必需物資の最小限度

の交易が行はれてをのみで全面的な經濟提携は未だ一指も染られてゐなかつた。もちろんこれは日獨伊三國間の海上交通の途絶による一般的通商の不可能なる事實にもとづくものであるが、しかし三國經濟の一般的疏通の途を開せんとする熱意がわが國朝野に乏しかつたこともまた偽らざる事實である。

去る十七日の衆議院豫算總會席上における松岡外務大臣の三國經濟提携に關する示唆は民間經濟界に多大の反響を喚び起し近く何らかの具體的動きが生ずるやに聞知する。しかして今日の場合最も安全なる活路による三國間の物資交流は一にソ聯の友誼的措施に俟たねばならないのであるから、三國經濟提携は必然的に日ソ獨伊の四國の友交關係を促進する性質を備へるものといひ得る。また一面ソ聯以外の第三國經由による交流も絶對不可能でなくそこに打つべき手が存することもほとゞ常識的に知らるゝところである。

問題は歐洲戰局の變化によつてまた太平洋における事態の變轉によつて左右さるゝところ大であるが、目前の物資交流の問題とともに生産技術の全面的交易が一その重要性をもつて考慮に上るべきであり、民間經濟人の職域奉公の資料がより多くこの技術問題において見出さるゝもの

と思はれる。

獨伊の欲する天然資源はわが大東亞共榮圈の確立により英米その他敵性國家群の手によらずして、わが國の溫い手によつて獨伊に供給され得る見とほしがつき得るのであるが、優秀なる技術上の發明は地域の廣狹に拘らずして生れるものにして、之が交易は運輸交通の問題としては取るに足らざる問題であるが故に、大東亞廣域經濟成立の過程中においても容易に執り行ひ得るものと信ずる。民間經濟人の先づ手をつけるべき方面は技術交流の方面である。時期を逸せざるやう急速なる提携を策せんことを希望する。(昭和十六年二月十九日工業新聞「工業春秋」欄所載)

四十五 増産と資源の確保

政府の從來採り來つた増産方針は所要物資の目前の調達に急にして當該物資永遠の生産資源確保について案外無關心であつたかに見える。かゝる態度は、もちろん支那事變ならびに世界變革對する洞察居力の不足に基因するものであつて一、二年もすれば支那事變が終熄するものと考へ、また世界史的大轉機の必然性に對する認識理解に缺くところがあつたからであらうと解さ

れる。

けれども近來やうやくその缺陷に氣づき木炭とか米麥などの永久的増産計畫を樹て數十萬町歩の耕地の開發とか山林の植付けに努力せんとするに至つたことは邦家百年の計としてまことに賞すべきものである。しかしかゝる百年、千年の計はひとり農林政策においてのみならず鑛工業においても採らるべきものでそのためには先づ金鑛の開發において、硫化鐵鑛の採掘において、石炭の増掘においてあまりに増産に急なるがため坑道切羽などの造成に當りて永遠の利益を無視したる技術的無理が敢てされてゐはしないかなどの檢討が必要である。

ドイツが幸に英本土攻略に近く成功したとしてもそれによつて世界の平和が來るものではない。却つてデモクラシーの假面を冠つた英米帝國主義は米洲ならびに大洋洲に據つて捲土重來を策するは火を賭るよりも明かで、従つて世界を擧げての戰亂が今後數十年の永きに亘つて持續するであらうことが豫想される。かゝる事態の豫見される場合において遠き慮りなき短見者流の政策を採つてゐては數十年を待たず數年の後において臍を噛むもおよばざることになると思はれる。急がば廻れの諺のごとく正しき技術の道を歩んで權道的生産の途を排し眞面目に國家百年の

生産の計を樹つるに専念せんことを政府當路に要望する。

橋田文相は科學する心を唱導されてゐるが、科學する心を持つべき急務は民間人よりもむしろ政府當路者において一そう大であるのではなからうか。(昭和十六年二月二十一日「工業春秋」所載)

四十六 計畫經濟の意義

貴族院において赤池議員から星野企畫院總裁に對して計畫經濟の字義が左翼的であるが故に計畫經濟なる文字の使用を中止すべき旨を提言したが、星野總裁はその然らざる所以を説いて反對した。また衆議院においても西川議員が計畫經濟のマルキシズム近似性に對する啓蒙的言説をなしてゐる。元來計畫經濟なる言葉の本來の意味は本社編輯顧問武田博士が昭和六年に著述した「社會經濟新原理」の中において定議づけたのが世界の學界における最初の試みであつて、それによれば計畫經濟とは現實の如何を顧みず或る理想の構圖を先づ畫いてその理想構圖に合するとく現實を變改する經濟政策の運營形態を意味するものとされてをり、爾來わが國ならびに諸外國の學者も概ねこれと同様の見解を採つてゐるやうである。従つて計畫經濟はマルキシズムでは

ないが、ソ聯のごとき強制經濟の行はれてゐる國でない限り容易に行れ得るものでなく、假りに行はんとしても非常なフリクションが起つて却つて無計畫同様の惡結果を招來する危險がある。現にソ聯においてさへ生産額が投下資本額の割合からいへば相對的に減少を來したといひ得るのである。わが國において實施されんとした經濟新體制が暗礁に乗り上げたのも現實無視の計畫性の故であることはいはずして明らかである。

いかなる經濟事項にも計畫性のないものはない。しかし普通にいふ計畫と計畫經濟なる術語における計畫なる言葉とは本來的に區別さるべきものである。少なくとも科學的に事物を思考する場合にはこの用意が必要である。もつともドイツにおいても、フランスにおいても統制經濟と計畫經濟とを混同して——*Planwirtschaft* かと *Economie dirigée* とかいふ言葉を無差別に混用してゐた時代があつた。しかし今日では判然と區別されてゐる。もちろん字義の詮議は學者の閑事業に任せればいゝが、國民思想と深き關係を持つが故にこゝに一言して一般大衆の啓蒙に資したい。(昭和十六年二月二十四日工業新聞「工業春秋」欄所載)

四十七 米ソ兩國の増産と將來

ソ聯が新たに十五ヶ年増産計畫を樹て、世界に向つて公表したことはソ聯一流の宣傳謀略を意味するものと思はれるが、しかしその生産力増強の熱意に對しては多大の敬意を拂はねばならない。イギリスの某誌の報ずるところによれば、ソ聯の勞働可能人口数は七千五百萬人に達すといはれる。その統計の根據は不明であるが、かゝる巨大なる勞働人口を擁するソ聯にして若しこれらの大衆に普通教育を行きわたらせることができれば恐らく發表された増産計畫がその數字通り可能となるかも知れない。該計畫中の諸數字の中で小中學校生徒數を三千六百二十萬人に専門學校以上の學生數を六十五萬七千人に各増加せしめんと企圖は吾人の注意を逸してはならないものである。最近ソ聯當局も氣づいたごとく結局は人にあるがゆゑにソ聯のこの教育方針によつてその増産の現實化の可能性が測定されると思ふ。

東の方アメリカにおいても軍艦飛行機および武器の製造において巨大なる數字を並べ立てゝゐるがこれもまた樞軸國に對する宣傳謀略にもとづくものと思はれる。しかしアメリカの方は教育

の問題よりもむしろ經濟的インフレーションの問題として研究さるべき點が多いと思はれる。すでにアメリカにおいては聯合準備銀行關係者間に軍需インフレに對する抑制方策が考究されてゐる。ルーズベルト大統領を傀儡とする軍器製造資本家はこの好機逸すべからずとして對英援助を口實に盛に軍擴に拍手をかけてゐる。彼等の眼中にはインフレの後に來る何者もないのであつて一途に軍需成金を志すに過ぎない。従つて金融業者の抑制方策が效を奏しない場合にはアメリカ經濟界は戦後再び破綻を來し戦時中の生産力増加は水泡のごとく消え去るであらう。

こゝに吾人は東西二大強國の將來に對する見通しに於て異なるものがなければならぬ。少なくともアメリカの生産増加は一時的であり、ソ聯のそれは永久的であり従つて恐るべきは將來のソ聯であるとの認識を深めざるを得ないのである。(昭和十六年二月二十六日「工業春秋」所載)

四十八 衆議院の議事終了に際して

本日をもつて一應衆議院議事は終了を告ぐることとなり第一次戦時翼賛議會の論議の幕を閉ぢるわけであるが、願て議會開會中の議事進行振りを觀るに、百三十億の尨大豫算を無修正にて通

過し政府の施政に對し鞭撻を加へ、なかんづく農産物増産と國民學校訓導の依給増額の積極的獻策を具體化したる點は、いさゝか翼賛議會たるの面目を發揮したるものといひ得よう。たゞ大政翼賛會の八百萬圓豫算をめぐる論争は、その目標が議會政治擁護の法理論に墮した傾きがあつたため、國民一般の全的支援を得なかつたことを遺憾とする。しかし大政翼賛會の臨時中央協力會議における論議のごとき稚拙な論辯のなかつたことは帝國議會の高度政治性を示すものと首肯すべきであらう。

衆議院議員側の翼賛の熱意に照しあはせて政府側の意思表示が近衛首相の決意表明の場合以外においては概ね低調であつて、未曾有の國難に際しての政府當局の氣魄が窺ひ得ない憾みなしとしない。ことに大政翼賛會の性格問題にたいする政府當局の答辯は萬人を首肯せしめるに足るものなく、ひたすら陳辯これ努めるの感をいだしめ、高度國防國家體制完備のための必須の機關たるべき翼賛會の機能を強調し得なかつたのは遺憾至極である。

これは要するに政府當局の時艱克服に關して政治、外交、經濟、文化の全般を一貫する根本方針において透徹せる理念體系なく、舊態依然たる觀念の外に出づるあたはずしてたゞ徒らに言語

のうへにおいてのみ新體制を表現するに過ぎないところに職由するものであると思はれる。國民を率ゐるには須らく言行一致が必要であつて、一身を國家に捧げると稱しながら僅かな發熱を恐れて病床を出づるを厭ふやうな指導者では、一介の力士照國が三十九度の高熱を冒して土俵のうへに敢闘せる氣魄に比して零壤の差が見出されるではないか。

吾人は絶対に衆議院議員の言行にのみ諷辭を贈るものではないが議會否認の聲高かりし際において吾人の抱いてゐた對議員觀が今次の翼賛議會において多少とも見なほされたに比し、政府當局に對する囑望が多少なりとも裏切られた感あるを禁じ得ないことを残念に思ひ、政府當局の今後の奮起を要望する次第である。(昭和十六年二月二十一日工業新聞「工業春秋」欄所載)

四十九 アメリカ航空機の生産能力

アメリカ合衆國の對日敵性が日を逐ふて悪化しつつある際、吾人のもつとも關心事とするところのものはアメリカの航空機製造能力の問題である。現代の戦争において航空機の受持の役割は戦争の運命の五割以上を支配するといひ得るのである。したがつて敵性國家群のもつ飛行機生産

能力について充分の知識を有すべきことが國防國家の國民一般にたいし要請されるのである。

某米誌の報ずるところによればアメリカは昭和十九年度には飛行機の年産額を五萬臺に達せしめ得べしとのことである。もちろんそれがためには現在の生産能力月一千二百臺を三倍強に増加するを要し、これに要する工場床面積は現在の七百萬平方フィートに、労働者を現在の十二萬人から四十萬人に増加せねばならないため、かりに工場の建設が可能であつたとしても熟練工を急速に得ることの困難があり、加ふるに工作機械、工具、治具の手當が事前に出來てゐなければならぬがゆゑに年産五萬臺は机上の計數にをはるかも知れない。いはんやある種の輕金屬とくにアルミニウムの不足は被ふべくもない事實であり如何にしても該計異の實現は不可能と思はれる。

しかしながらイギリスの生産能力とアメリカの生産能力の半分が對英援助に使用されるとしてその合計を對獨空軍充備力と看做すならば本年度中に英米對獨空軍比率は十對十に達する可能性がある。したがつてドイツとしては本年中にイギリス本土攻略戦を完成する必要がある。またわが國としてもアメリカとことを構へるを好むものではないが、賣られた喧嘩は買はねばならぬとすれば、すくなくともアメリカの生産能力の二分の一程度の生産能力を備へる必要がある、なほ

他の方面からの脅威に備へんが爲にはアメリカに劣らざる生産高を確保せねばならない。かゝる事實に想到するとき空軍の實力は量よりも質にありとしても質にのみ依頼することは危険であつてやはり質、量相ともに敵に一籌を輸せざるだけの準備が必要であり、國民は一時の安を偷んで百年の悔なき覺悟と努力をいたさねばならないと信ずる。(昭和十六年三月一日「工業春秋」所載)

五十 産業團體令と指導者

傳ふるところによれば企畫院と商工省との間に産業團體令をめぐる意見の對立があるやに見受けられる。劃一的産業團體令による形式的整序の主張にも一理あり、また個別的産業團體令による適業主義の主張にも一理がある。しかし吾人の見解によれば團體統制の目的が國家内に同一方向にあるかぎり、いづれをとるも結局するところほゞ同一の條項が成文法として上梓されることになると思ふ。ただ異なるところは各業種別による技術的差異であるが、これとても施行細則によつて規定さるべき點が多いために、統制法の主文としては業種別に異なる條項を必要とするほどではない。したがつて企畫院と商工省との意見對立は統制令の主文と施行細則との分別取扱

ひによつて妥協點に到達し得るものと思はれる。

元來古語にもいふごとく法は三章をもつて足れりとすべきであつて、煩瑣なる統制法令が汗牛充棟も當ならぬほど發布されても、その實效にして擧らぬかぎりそれは紙とインクの損失のみではない。法の精神はその法の要求するところが國民の現實の行爲となつて實を結ぶにある。しかるに今日までの統制法令の志向せるところと國民各個の經濟行爲との間には格段の差があつて、法のもとむる目的の達成が不能に陥つてゐるといひ得ないではない。かゝる缺陷は法文そのものゝ不備にもよるであらうが、法文を行爲のうへに具現せしめるべき實踐的指導者の存在せざることが最も大なる原因であると考へる。

法令を生かすも殺すも要するにその法令を衆に先んじて自から實踐に移すのみならず衆をひきいてその實踐に協力せしむる迫力ある實踐的指導者を得能ふか否かによるのである。政府當路が今日まで統制法令の出し放しをやつてきたことは若手官僚群の机上イデオロギーに禍されたことによるものと思はれるが、もはやかゝる試験済の過誤を今後絶対に繰返すことなく、眞の指導者を朝野の遺賢に求め一日も速かに經濟統制の完璧を期せられんことを切望してやまないものであ

る。(昭和十六年三月十六日日刊工業新聞「工業春秋」欄所載)

五十一 ル大統領演説に關聯して

アメリカ大統領ルーズヴェルト氏が十五日夜新聞記者聯盟主催大統領招待晚餐會に於てなせる演説はデモクラシー擁護の詭辯のもとに樞軸國に對して發せる宣戰布告に等しいものである。わが國が謙讓の美德を守つて對米言説において殊更に儀禮の極を盡しつゝあるにもかゝはらず極めて露骨なる援蔣行爲の聲明をなせることはわが國民のもつとも不快とするところであり、かゝる非禮に對し報ゆる處なくば我國外交スポークスマンの存在の必要なしと極言してもいいと思ふ。十五日夜の演説に對し十七日朝刊においてわが外交當局の一言これに及べる記事の發表さへ見ざるは時差の關係もあるが十六日が日曜日の故かと考へる。一瞬止まるところを知らざる全世界的大轉換機における外交當局が日曜の故をもつて怠眠を貪つていゝのだらうか。かくのごときことで果して一億國民を率いて世界外交の檜舞臺で活躍が演じ得られるだらうか。速かに對米謙讓外交を清算して國民に向ふところを知らしめるべきである。

ル大統領がアメリカを唯一の安全地帯としてその本據をニューヨークにもつ國際資本團の傀儡であることは世間周知の事柄であり、それ故に該資本團の金儲けの絶好の機會である今次歐洲大戰を世界大戰にまで擴張し思ふまゝに世界の財寶を自家藥籠中のものとせんとする謀略は今日では三歳の兒童といへどもよく知るところである。従つて授蔣行爲の露骨なる聲明もまた怪しむに足らざるところであるが、しかしわが國としてはかゝる國際的謀略をその行動のうへからはもちろん言葉のうへのみでも黙認することはできない。彼等のデモクラシーの假面を剥ぎ取つてその國際謀略の實相を世界に開明し世界人類をして眞の生くべき道において生を樂しましむる皇道政治の眞諦を八紘に宣布し、皇道的新秩序こそ假面のデモクラシーに代つて世界人類を幸福ならしむるものなることを知得せしむべきである。蘭印が共榮圈加入を拒絶しても、これを指を啣へて見逃すやうなことではデモクラシーの假面を剥ぐことも困難であらうが、日本國民としてなすべきことはなさねばならぬ覺悟さへあらば吾人の外交字典から不可能の三字が消え去ると信ずる。

(昭和十六年三月十八日日刊工業新聞「工業春秋」欄所載)

五十二 政策の神速性

政府がその政策を樹立しそれを實施するにはきはめて周密なる用意を必要とするは論を俟たぬところであるが、今日のごとき世界史的大轉換期に當つては神速なる準備と實踐が要求される。下世話にいふ下手の考へ休むに似たりで、ことごとく時機を逸し民心をしてその熱すべき時に熱せしむる能はずば一億國民を率いて如何にしてこの歴史的大聖業を完遂し得ようか。

政府は大政翼賛會の改組を議會に確約しながら爾後約三週日を経過したるもなほ改組の一般方略さへ決定し得ざるがときは、まことに民心をして倦ましむるゆゑんのものである。また經濟新體制要綱を決定して以來これまた月餘の日時を徒費しながら未だその實踐の第一歩さへ踏み出し得ないがため經濟界全般に亘つて低徊氣分が横溢してをる。かくのごとき状態が今後相當期間持續するならば民心の沈滞は遂に救ふべからざるにいたるなきやを惧れる。

アメリカ大統領ルーズヴェルト氏は日獨伊三國に對し宣戰布告にひとしき言辭を吐いてゐる。また實際に南太平洋に艦隊の一部を派遣して對日示威を行つてゐる。斯る外部よりの強壓が逐次

累加しつゝある際、國內問題を一日も速やかに解決して國家の總力を外に向つて一丸として發揮せしむべきであるにも拘らず曠日彌久なら爲すところなくして果して臣道實踐の本義に協ふものであらうか。われら國民は爲政者の口頭禪によつて満足するものではない。われらは何時にても身命を獻じて國家に殉ぜんとの決意に燃えてゐるのである。しかるに指導的地位にある爲政者が左顧右眄して國民の歸趨を示さざるにおいてはわれらはいかにして盡忠の赤誠を實踐に移し得るだらうか。鐵は赤きうちに打つべきである。神速果敢なる爲政者の行動こそ望ましきもの、第一である。政府當路は神兵隊事件の顛末を讀んで國民の胸奥に溢るゝ誠忠の熱火を知るべきである、下手の考へ休むに似たりとの下世話の通りにならざるやう熱願する。(昭和十六年三月二十日日刊工業新聞「工業春秋」欄所載)

五十三 科學陣營の整備について

政府ならびに翼賛會および大學當路者は自然科學陣營の統合による總力發揮に努力をいたしてゐるが、科學陣營はひとり自然科學のそのみの統合によつて全きを得るものではない。自然科

學と密接不可離の關係にある社會科學、ことに法律、政治、經濟の諸科學との連絡綜合を怠るに於いては、その生産配給に關聯したる實際問題の取扱ひにあつて、難關に逢着するおそれなしとしなす。

自然科學者の發明、發見乃至改良、工夫を實際の生産に應用し、それによつて生産されたるものを配給して需要を充足するにあつては、そこにより、多く使用目的に適應しながら生産費の點においてかへつて不經濟であつたり、從來使用されてゐたものに代位することから生ずる企業の隆類の問題、ひいては資金關係において生ずべき摩擦などに考へおよぶならば、自然科學の立場から物資の生産に關する技術を検討するのみでは充分でない。

また自然科學者の立場からみるならば満足するに足るとする技術も、政治經濟的立場からみると、これにある種の改良乃至變更を加ふべきことが要請される場合もあり得る。ことに國家總力戰の戦はれつゝあるときにあたつては、或ことからの觀察をなすについて總力戰的考察が絶對に必要であり、一方に偏したる研究には總力戰態勢を害ふことが往々にして生ずるものである。例へばわが國における製鐵または製鋼方法についての研究が、歐米の豊富なる資源國におけ

るそれと同様の立場において行はれ、原料の海外依存性の危険に想到せざりしため、今日にいたつてアメリカの敵性に抗するの不利を嘗めつゝあるは、社會科學的研究を離れての自然科學的研究の齎したる缺陷である。

由來自然科學者は社會科學者よりも偏狹であるが、その人たちが大同團結し國家の急に赴かんとする忠誠の念にたいしては、吾人は滿腔の尊敬を拂ふものであるが、しかしさらに一步進めて社會科學者との提携をも密接にして一層その國家的意義を昂揚せんことを囑望せざるを得ない。(昭和十六年三月二十三日工業新聞「工業春秋」欄所載)

五十四 米國の超高速生産擴充

ルーズベルト大統領の積極的援英方針の聲明以來アメリカにおける軍需生産力擴充は他國にその比を見ざるほどの超スピードをもつて行はれつゝあり。その事例として掲げるに興味深きものの一としてフォードの飛行機製造工場の建設がある。フォード會社では晴雨の如何に拘らず、また日夜の別なく工場建築工事を進めるために數十間の間口と數百間の奥行従つてまた數間の高さ

を持つ鋼板の一個の函を作つて、その内部において工事をなす計畫を樹て着々實行に移しつゝあるとのことである。

かゝる大仕掛な仕事はいはゆる米國式であり、その精巧の程度には相當疑問があるも、とにかく驚くべき速度をもつて萬事を實行に移すところに吾人の戒心を置くべき長所が發見されるのである。何事をなすにも形式に泥み議論に時間を空費し繩張争ひをして口には國家主義、職域奉公、臣道實踐を唱へながら生産力擴充が前進よりも後退をなしつゝあるごときどこかの國と違つて、諸事實行を第一とするアメリカの遺方には學ぶべき多くのものが在る。

日滿支を一貫する鐵鋼増産計畫がいかにか熱望され期待されてゐるかは口舌の論を絶するものがある。しかるに民間指導者と商工當局との間における會見の、形式如何によつてか將また會見に至るまでの手續の問題によつてか知らぬが、官民の打合が頓挫を來せる事實は實行第一主義のアメリカの實例と比較して遺憾なき能はずである。アメリカの敵性に對抗し得るがためには鐵鋼、石炭の増産が何よりも必要である位のこととは國民學校の生徒といへども熟知するところである。しかるに形式に感情に手續に原因して一刻を争ふ國策の實行案を棚上げして顧みざるごときは、

果して國家に忠なるものといひ得るだらうか。

アメリカもまた非鐵金屬の不足に悩んでゐるが、それでもわが國ほどの不足を痛感してゐるのではない。もし彼等にして一朝かゝる資源の獲得に成功したらばその實行第一主義によつて必ずやその豫定の計畫を遂行し得るに至るだらうと思はれる。日米生産力擴充の競争は兎と龜の競争に終るや否や何人も豫斷し得ないところであるが、アメリカの超スピード生産擴充の實際に觸れて國民の慎重なる考慮を煩はさざるを得ない。(昭和十六年三月二十七日「工業春秋」所載)

五十五 小倉氏登場の意義

住友本社總理事小倉正恒氏の閣臺登場の報が巷に傳はるや種々の觀測がこれに向つて放たれてをるが、近時東京方面の財界巨頭連の政治への進出が全く影をひそめ獨り關西財界人の登場が頻りに傳へられかつ實現しつゝある點に想到せば、そこに小倉氏の個人的要素を離れて何らかの意味が深く藏されてをるのではないかと思はれる。

住友家と近衛家の私的關係、平沼内相と小倉氏の私交問題を離れて前述の關東財界と關西財界

の政治近接の差異について省察するに、池田、結城兩氏の退場以來、關東財界人は全く政治の表面より姿を消して影武者的勢力を揮ふに至つた原因を探究することによつて始めて、かゝる差異の根源を捉へ得るのではなからうか。

最近の政治の超非常時性は千古未曾有であつて何人もこの難關を突破して或る一定時内に一陽來復の春色を迎へ得るについて充分の確信をもつて對處し得るものはないであらう。如何にしてもなし遂げなければならぬ國策を支持しその遂行についての熱意と忍耐力を有する點において國民のすべてが他に譲らぬだけの覺悟をもつてはゐるが、さてその實踐における選手として晴れの舞臺に登場し國策完遂の責に任じ得るだけの識見と手腕を兼備し國民の誰よりも充分の信頼を獲得し得るものは容易に存在しない。自惚鏡を所持するものは多數あるが、客觀的に自他ともに許す人物に至つては曉天の星も曇ならぬであらう。また自己保全の道からいふも好んでこの難局に向ふものはないと思はれるのみならず政局内面の複雑性を知悉するものにとつては好んで足を踏み入れるべきでないとも考へられる。

關西財界人は比較的に政治の樂屋裏の煩雜さを知らず、政治的には極めて初心であるがゆゑに

また政商的行爲を潔しとせざるをもつて、今日のごとき世局の難關に逢着しては却つて毅然たる態度をもつて對處し得る長所を持つてゐるやうに思へる。小倉氏の人格からいつて世路の艱難に處して不屈不撓の精神をもつて近衛首相を援けて内閣の腰を強めるに多大の貢獻を致すべきことが豫想される。殊に小倉氏の工礦業方面における指導者の體驗は今日の國家的要求に完全に適應する資格を同氏に與へてゐると思はれる。従つて吾人は同氏の登場に對し双手を擧げて歡迎の意を表する次第である。(昭和十六年四月二日工業新聞「工業春秋」欄所載)

五十六 經濟政策の綜合統一

昭和十三年以來、政府當局の實施し來りたる經濟政策なかんづく經濟統制の實際的效果は吾人の期待に反するところ大であるばかりでなく、統制實施のためそれまで圓滑なる需給關係を保つてゐた物資の需給關係が俄に攪亂されて國民大衆が不測の損害を被つた事例少しとしない。かゝる惡統制は當局が經濟の實際に暗いために生じた場合もあるが、また統制方策の統一の缺如に原因せる場合も多いのである。

例へば商工省内の總務局、各物資局、振興部、物價局間に意見の對立があり商工省と農林省と企業院間の意見の對立もあり、これらを綜合して最も實際的效果の大なる方策を樹立する統一的役割を演ずる者の缺けてゐたことが今日までの經濟統制を惡統制たらしめた重要な原因である。一事務官の誤れる主張がその妄信的熱意の故に採用されて國民經濟の一部を全く破綻に陥れた事例さへあるではないか。上司に確たる良策があつたならば阻止出來たはずの惡統制が濫りに實施されたるは全く統率者その人を得ざりしがために由來する。

近衛首相の談として耳にするところによれば小倉無任所相の役目は經濟政策の綜合統一に在ることであるが、首相にしてこの點に氣付いて小倉氏のごとき經濟の實際に體驗豊かなる人その衝に當らしめたるはまことに時宜に適したる措置といはなければならぬ。從來の若手官僚のごとき觀念論の渦中に泳いでゐたものと異なり、多年鍊成されたる古武者の採る統制手法は必ずや無益の摩擦を排除して圓滑に國防經濟體制の完備に成功するであらうと信ずる。しかしこゝに吾人が民間經濟人に希望する點は小倉氏を自家藥籠視してその國家本位の手腕發揮を阻害せざるよう心懸くる一事である。わが國は今辛うじて英米と矛を交へずに済んでゐるけれども國際情勢

の變化によつては何時不測の變が來るかも知れない瀬戸際にあるのである。かゝる際において個人的利害打算から出發せる似而非國家主義論策をもつて小倉氏を牽制することは官僚のセクショナリズム以上にこの經濟政策の綜合統一を阻止し延いて國防經濟體制の完備を遅らせる結果を來すべきを以て、斷じて容認すべからざる罪惡なりと考へざるを得ない。國民一致綜合統一の全き經濟政策の實效を收穫すべく協力しようではないか。(昭和十六年四月三日「工業春秋」欄所載)

五十七 商工行政の新性格

藤原商工大臣について小林商工大臣が純實業家畑から出で、閣臺に列した際、吾人はいはゆる青白きインテリ官僚による經濟統制の拙劣極まる手法を改善して眞に國民生活に安定を與へると同時に軍需調達に萬遺漏なき總力戰經濟體制の確立を期待したのであつたが小林氏の「私の行き方」が豫期に反した結果をもたらしたことを遺憾とする。官僚統率の困難は多年培はれたる商工省内の派閥的勢力が○次官の退陣によつて掃除されたのではなく、反對に小林氏の攻勢に抗してますます強化されたため一層その度を増したことは消息通の熟知するところである。従つて今直

ちに純實業家畑から後任を物色し得てもその効果は蓋し小林氏の場合と大同小異であらうことは推定に難くないのである。

こゝにおいて考へられる窮通の途はたゞ一つであり、それは全く違つた方面から人材を登用することである。しかもその人物が戰時經濟の運営に多少とも經驗を持ち官僚の攻勢を反撃して押し通すだけの背景と自力を持つものでなければならぬ。この資格ある者は陸海軍方面以外には見出せない。こゝに吾人は容易に豊田新商工大臣の出現の理由を把握し得るのである。しかし豊田新商相の登場の理由は右のごときものゝみではない。商工行政の今日の段階は從來の商業乃至は工業に對する見解を離れて軍需と民需の調達における總力戰的諧調をはかるにあるはいふを俟たない。従つてそこに商工行政の超戰時的性格が顯現する。

かゝる國家的使命の完遂の任に當るものはむしろ過去と周邊の因縁に拘はることなく全く白紙に還元して出直す必要がある。こゝにも豊田新商相出現を裏書する事由が発見される。しかして國民として深く省察すべきは時局の超非常時性である。商工行政をして個人營利致富の便益をはかるごとき方向に向はしめてはならない。どこまでもそれは經濟の國家總力戰體制完備のための

ものであらしめねばならない。しかし一部人士の唱へるとき商工省の純軍需省化は總力戰的地からすれば極めて拙策であつて眞の總力戰方略に合するとき民需と軍需の均衡を主眼とし、その線に沿ふ限りにおいて強力なる實行力を有し官民一致その達成に協力を致す如からしめねばならぬ。(昭和十六年四月六日工業新聞「工業春秋」欄所載)

五十八 歐洲戦局の變貌とわが國策

英獨爭覇戰の中心舞臺がドーバーからバルカンに移動し、ユーゴスラビヤとギリシヤの運命如何によつて、さらに地中海が戰爭の正面舞臺とならんとしつゝある際、吾人は國際情勢今後の變遷のキヤスチングポウトを握るわが國のこれに對處すべき方策を論究するの責務を痛感せざるを得ない。

由來外に政策はいづれの國も兩建を通則とするのであるが、たとへばソ聯が重慶政府を援助しながら、重慶政權打倒に邁進しつゝあるわが國とある程度の修交を肯定するがとき、またイギリスがドイツと戦ひながら、三國同盟の一國たるわが國と戰爭回避の協商をなすがときである

が、これらはそれによつてその國々の利益を擁護し自國の國策遂行に便せんとする打算から生れた政策である。ドイツが宿命の敵であつたソ聯と和協して英佛打倒の征途にのぼつたのも同様の手法である。

かゝる手法はそれによつて自國にもつとも大なる永遠の利益をもたらす場合にかぎらるゝのであつて、それがために自國の地歩が他日覆滅さるゝとき危険なる萌芽を胎藏するとせば、決して絶対に採用さるべきではない。吾人は常にいへることく、ことさらに事を好むものではないが、對米國策において手抜かりなき配意を外交當局にたいし待望せざるを得ぬ。といふ理由はほかでもない。第一次歐洲大戰においてわが國がイギリス側にたつたがためにドイツは破れたのであつた。しかるに戦後においてわが國の報いられたものは何であつたか。それは日英同盟の破棄とワシントン會議、ロンドン會議によるわが海軍壓縮以外に何物もなかつたではないか。

今日わが國がとりつゝある國策の内容如何についてこゝに論ずるの自由をもたないが、兩建政策のもたらす効果が究極において第一次歐洲大戰後と同様である懸念濃厚でありとすれば、わが國のとるべき方策が如何であるべきかははずとも明らかであるはずである。巷間種々傳へらる

ゝところのものゝ真相を把握することは困難であるが、天所高所より判断して一本建で行くべき場合は一本建によるべきであり、すでに成れる國民の覺悟に冷水を打かけるがごときことなき配慮が必要であらう。(昭和十六年四月八日工業新聞「工業春秋」欄所載)

五十九 軍の機械化と中小工業補強

陸軍においては今回機甲本部を設け軍の機械化を徹底的に敢行することになった。軍當局の話によれば國軍の機械装備はドイツのそれに比し劣つてゐるやうであるが、今次のドイツのユーゴ一ならびにギリシヤに對する電撃戰の實績にてらしてドイツ軍の策戰の妙とその機動力および攻撃力の強大さに想到するとき、そこに學ぶべき多くのものが存することを軍裝備に無智のものといへども知得し得るところである。

從來わが國においては機械力を幾分輕視し、肉彈戰を重視しすぎた傾向がないではなかつたかと思はれる節がある。かつて荒木大將の有名な竹槍説を聞いたことがあるが、皇軍將士の生命を鴻毛のかるきに比すべき忠烈武勇には「ノモンハン戰記」「ノロ高地」などの實戰記を涙をもつ

て讀んだものの深く敬畏し信賴するところである。しかしながら強勇をもつて鳴るギリシヤ軍、セルビア軍がたゞ一撃のもとにその第一線を壊滅せしめられた目前の事實は如何に皇軍將士の武勇が世界に絶するものであつても、かりに同様の立場に置かれたとしたならば果して「ノモンハン戰」と同程度の損害で済んだであらうとは思はれない。

もちろん機械は死物であり、それを動かす將兵の武勇によつて、はじめて高度の戰鬥力が發揮されるわけではあるが、人力を絶する機械力の強大さに打勝つことは今日のごとき科學の進歩せる時代にあつては到底不可能であるといふべく、かゝる時代の特性に即應してわが陸軍當局が機甲本部の創設でふ大英斷に出でたるは眞に時宜の處置といふべく、國民の軍にたいする信賴の念をいよく強めるにいたるは必然である。切にその急速なる完備を望んでやまない。しかし右に關聯して考ふべきはわが國の民間工業生産能力の増強如何の問題である。中小工業者の過多のものたらす缺點を匡正し眞に強固なる體制を整備せんがためには、軍機械化裝備促進に隨伴してこれら弱小工業を補強して奉公の實をいたさしむることき方策を講ずべきである。商工省當局は最近下請工場制度の確立をはかりつゝあるが、軍の機械化に貢獻する意味において一層中小工業の強

化に努力せられんことを熱願せざるを得ない。(昭和十六年四月十二日工業新聞「工業春秋」欄所載)

六十 日ソ國交調整と今後の外交

松岡外相渡歐のおみやげの一つとして日ソ中立條約の調印を見、ちかく東京において批准交換がおこなはれるにいたつたのは、洵にわが國外交史上に特筆大書すべき慶事といはなければならぬ。今日までわが國民が東の間も忘れない待望の日ソ國交調整の成れることは、國民に大なる安心をあたふるものであるが、しかし國際情勢の變轉は日に夕を測り得ない點にかんがみて國防の實際に油斷を生ぜしめてはならない。このことは深く國民の戒心すべき點である。

一部に傳へられるごとく獨ソの關係がバルカン戰局の擴大のために惡化したるや否やは、吾人深くその事實の内容に立入つて知悉せざるをもつて批判のかぎりではないけれども、獨ソ關係の惡化が日ソ關係の改善に貢獻するところあるべきは推測に難くない。しかし獨ソ關係の惡化を利用して日ソ關係の改善をはかるがときは吾人の執らざるところである。日東君子國としてすくなくとも三國同盟の一員として獨ソ關係の良化をもたすがごとき日ソ國交の調整を企圖すべき

はいふを俟たない。

また説を爲すものは日ソ關係の良化はわが國對米態度の硬化を誘致し、ひいて南進論に拍車をかけつひに英米との衝突の機會を促進すべしと論ずるも、わが國の對英米態度はわが國獨自の判斷により決すべきものであつてソ聯の後援によつて左右すべきではない。もちろん日ソ間の關係がよくなるだけそれだけわが國の英米敵性國家に對する地歩が強化されることは明白なことからであるけれども、對英米外交において打つべき手はなほその他の要素を考慮に入れて決定すべきである。

日ソ通商協定、日ソ漁業條約その他の問題も日を遂つて解決されるものと思はれるが、わが國は何處までも日東君子國の矜持を保つて目前の事態にのみとらはれず、國家永遠の發展を目標として、雄渾なる世界の運命を決定するとき手を打たねばならぬ。吾人は滿腔の祝意を日ソ中立條約の締結に對し表示すると同時に、また松岡外相、建川大使らの使臣の勞を多とするとともに、政府がこの契機を利用して三國同盟の精神を倍々活用されんことを切望する。(昭和十六年四月十五日工業新聞「工業春秋」欄所載)

六十一 住宅政策の再検討

政府は住宅營團なるものをつくつて住宅難の緩和をはからんとしつゝあるがごときも、その企圖する住宅がきはめて小型の獨立家屋であつて、早晚不良住宅化するおそれの多分にある點にかんがみて、たとへそれが目前の勞務者住宅の急に應じ得るとしても永遠の計として果して勸奨すべきものなりや大なる疑問が存する。

詳論するならば、二室や三室の住宅なるものは從來の實情に徴するも急速に不良化し非衛生的なものと成ることは明らかであり、それが棟割長屋でなく獨立家屋であるとしても、數室を有する家屋に比し不良化の速度の大なるは幾多の實例のしめすところである。二室や三室の小住宅に二、三人で住む場合と五室六室の家に五、六人で住む場合とを、その實際の使用効果のうへから判斷して見れば直ちに判明するであらう。たとへば二、三室の家に二、三人で住む場合家族に病人ありとすれば、その病人の養生のうへからいつて果して満足な靜養をなし得られようか。之に反し五、六室の家に五、六人で住む場合は、健康者を二、三室に集團せしめて自餘の二、三室を

患者の靜養に充當して充分の療養を行はしめ得る利便がある。單に病患の場合のみでなくあらゆる場合に室數の比較的多いほどその利用効果が大きいである。さらに進んではこれら住宅の利用効果ばかりでなく、二、三室の小住宅を獨立家屋として建てる場合における建築資材の所要量の比較的によく要することならびにそれに要する敷地がこれまた相對的に大なるべきことは、資材ならびに耕地の不足の折から喜ばしきことではない。さらに小型獨立住宅の増加は、薪炭その他の生活必需品の需要の比例以上の増加をきたし、全般的に見て不經濟の原因を成すものといひ得る。

したがつて勞務者住宅としては二、三室を一單位とする十數單位または數十單位を有するアパートをもつてこれにあて、建築資材、敷地、必需品の節約をはかると同時に大家屋のもつ不良化速度の遲滯による利益を收むべきである。若しかゝるアパートにおいて病室を設けるとか共同榮養を給する設備をもつならば、國民保健上きはめてのぞましき効果を發揮するであらう。しかしまた他面において一般自家用住宅建築の制限を緩和しかつ貸家建築の採算をいまま少し有利化するならば、營團の手をからずして良好なる住宅の供給を増加し能ふのみならずそれによつて派生的に都市における學生寄寓難をも解決し得るであらう。(昭和十六年四月「工業春秋」欄所載)

六十二 米國の立場

ルーズベルト大統領を先頭にたて、援英に大童のアメリカもドイツのバルカン電線戦によるユーゴ國の消滅とギリシヤの同様の運命が豫見され、且つまた北アフリカのリビヤ戦線が崩壊して逆にスエズ、アレキサンドリヤが危殆に瀕し、假りにエチオピアが完全に英軍の手に入ったとしても、差引イギリス側の敗戦氣分が一層濃厚となりつゝある際、アメリカ當路の焦燥は察するに餘りある。

リンドバーク氏の喝破せるごとく援英の無効なることはアメリカ當路の先刻承知の事柄であるが、そこにアメリカに本據をおく國際財閥の深謀遠慮が存するのである。イギリスの後繼者としてイギリスの富を全部繼承するためには世間の手前無益と知りつゝも援英のゼスチュアを放棄する譯にはいかぬし、またさうすることによつてユーゴ國と同様にあきめくらはである第三國を欺瞞し得ないではない。かゝる謀略はわが國內の一部に對しても相當有力に作用してゐるやうである。

アメリカと事を構ふるためわが國が破綻し亡國の淵に沈落するがごとく考ふる一部敗戦主義者はとにかくとして、假りにわが國がアメリカに對し積極的に攻勢に出るとしてもアメリカは退いて衝突を回避するであらう。今日の歐洲の情勢から判斷してアメリカが自ら積極的にわが國に對し攻勢に出ることの不利なるはアメリカ自身の克く知るところであり、イギリスもまたアメリカがわが國と事を構ふるを好まざるは明かである。いはんやわが國がソ聯と中立條約を締結し後顧の憂を除き得たる今日、英米がわが國に對し攻勢に出ることは絶對にあり得ない。一部敗戦主義者の杞憂は文字通り杞憂に終るであらう。

アメリカが口には自由と平和を唱へながら英獨爭覇戦を世界戦争にまで發展せしめんとする野望は完全に打壊された形であるが、國際財閥が今後如何なる手を打つべきか測り知り得ざるも、アメリカの立場としては眞に平和を招來するとき態度に出づべきである。其がまたアメリカをして今後永遠に西半球の平和と自由を保障せしめ得る最善の方策であり、世界人類の幸福がそれによつて等しく保證されるであらうことは明かである。(昭和十六年四月二十一日工業新聞「工業春秋」欄所載)

六十三 天長の佳節に當り志を述べ

本日天長の佳節にあたり聖壽の萬歳をことほぎ奉ると同時に、國民としての心得を述べ時艱突破の覺悟を新たにしたい。

松岡外相が過日比谷公會堂における歡迎會において述べたごとく、わが國には 天皇のおはしますことによつて世界無比の國體の精華を發揚し萬邦に光被する恩澤を享有し得るのである。したがつて紀元節にも倍して天長の佳節を奉祝すべき責務を痛感せざるを得ない。

この佳節を奉祝するについてはいはゆる舊體制に泥んで業を休み饗を設けて祝意を表し奉るよりは業に勵みながら心から聖壽の無窮を祈念し奉るべきではなからうか。國家の非常時に際會して一日一刻も心の紐を緩めるを得ない場合に、大御心によつて業を休むことがゆるされても、寧ろお許しをお断り申しあげて業務精勵して、一斤の鋼材、一個の齒車でも増産するのが忠節の道ではなからうか。世界の情勢は一瞬の停滯もなく變化してゐる。第一線の將兵はこれまた一秒の隙と雖ども油斷するを得ない。想ひをこの點にいたすときわれは一刻を享樂に費すさへ許さ

るべきではない。

我等が 天皇を現人神と敬ひ奉るは、大御心が完全なる没我の境に在らせらるゝによるものである。大御心を心として我々が行動すべしとの訓は、國民の誰もが没我の悟道に入ることであつて、若し我々が完全なる没我的行動に出で得るならば、凡百の法令を布告して經濟統制を行はなくとも我國の經濟統制は何等の支障なく運用されたはずである。否經濟統制そのものさへも必要ではなかつたであらう。闇取引、闇相場の出現はそれらの罪を犯す者が大御心を心とせざる不忠の臣であるが故である。勿論經濟統制の方法に過まれる點が多多あるであらうが、それを改めるについても政府當局は大御心を心とすべきであり、また經濟人も大御心を心として法の修正を當路に要求しつゝそれまでの實踐において違法を敢てしてはならない。現在における經濟的摩擦はすべてが我執の心に基因するといふも過言ではない。

吾人は信ずる。時艱克服の唯一絶對の途は國民の全部が朝に在ると野に在るとを問はず、我執を去つて没我の大御心を體得することであると。(昭和十六年四月二十九日「工業春秋」欄所載)

六十四 イギリス謀略の教訓

バルカン反樞軸國にたいし申わけの僅少の武力援助、しかもそれは死を賭した少數の優れたる戦士による實質的に有効な援助でない假裝援助を興ふるのみに過ぎないイギリスの弱小國犠牲政策は、つひにユーゴとギリシヤ兩國の壊滅によつて完全に面皮を剥がれた。ユダヤ的金權者流のなすところは自己の生命財産を犠牲にして他の難におもむくにあらずして、他の生命財産の犠牲において自己の難を避けんとするに急である。かゝる誠意なき政策が善果をむすぶべきはずはない。ギリシヤ軍民が敗退しつゝあるイギリス軍將兵にたいして採つた態度は當然であつて、イギリス軍はみづから播いた種の收穫をなすべきである。

かゝる下世話にいふ他人の犢鼻褌で角力を取るといふ仕方は個人間において往々行はるゝ悪手段である。個人自由主義の國家制度のもとにおいてはかくのごとき處世術もまた容認され得るであらうが、一億一心の團結によつて國家目的を完遂しようとする場合においては、かゝる術策は制底許さるべくもない。しかるにわが國においていまなほかゝる陋手段を弄するをもつて巧妙な

る世渡術と心得をる不心得者が相當多數存在することは實に慨歎に堪へない。

これはまたうつしてもつて今後のわが國策遂行のうへにも鑑とすべきである。大東亞新秩序建設に邁進するにあたつてわが國の採るべき態度はイギリス式謀略のごときものであつてはならない。正々堂々の陣を張つて君子の道をあゆむべきである。それにもかゝらず對外國策に關聯して英米の謀略に通謀してわが國の前途を危殆に瀕せしめんとする無知の徒輩の蠢動が報ぜらるゝは眞に遺憾である。英米は獨伊二國を相手としてさへ敗戦をつゞけつゝある際、わが國をさらに相手方陣營に逐ひ込むの愚をあへてしないであらうことは英米の智者たちのすでに知悉するところである。したがつてかれらの爲さんとする對日謀略のなんたるかはいはずして知り得るのである。何を苦しんでわれより求めてかれらの謀略に通謀する必要があらうか。

世界のいづれの國もが知りつくすにいたつたイギリス式謀略をわが國民のすべてが認識し理解し得たならば、わが對外國策の進路は明瞭に前景に押し出され不退轉の勇氣をもつて遂行さるべきであることが體得されるであらう。(昭和十六年四月二十七日工業新聞「工業春秋」欄所載)

六十五 防諜の意義

近時××運動週間とか○○運動週間とかの催しが頻々として行はれるが、それが一つの啓蒙運動であり宣傳のみ使命とするものならば、従來のやり方でもさしつかへないかも知れない。しかしその目的とするところが實踐躬行にありとすれば若干期間の間ポスターをつるしたり一回か二回の講演會を開いてお茶を濁してすまされるものではない。二六時中不斷の訓育教化が行はれなければ、運動の目的を達することはおそらく不可能であらうと思はれる。ことに各種の宣傳が踵を接して行はれる時代にあつては、宣傳の効果は逐次減殺されて行はざるに勝れる場合が多く生ずるであらう。

最近の防諜週間の催しも至極結構であるが、總力戰的に考察する場合においては従來のごとき狹義の防諜の考へかたでは駄目ではないかと思ふ。英米そのほか各國のブラツク・チエンパーが暗號電報の解讀を容易になしうるところから觀察して、一國內において發表されるあらゆる統計的數字とか經濟記事はきはめて好個の資料を敵性國家に提供するものである。先般發表された人

口統計は單に内地外地の總人口と内地各府縣別の人口を發表したに過ぎないと當局では考へてゐるかも知れない。いなむしろ人口増加を誇示する意味から大變良いことをしたつもりであるかも知れない。全國總人口とか府縣別總人口をのみ發表したのならば、右のとほりの宣傳効果を收め得たかも知れない。しかし男女別人口統計の發表にいたつては實に沙汰のかぎりであつて、當局は明かに防諜上からいつて刑罰に値する過失をあへてしたといひ得る。その理由を説明することそれ自體が防諜の目的に反するがゆゑにここには詳説を憚るが、すこしく統計取扱ひの原則を知らるものにあつては、筆者が何を語らんとするかを推知されることと考へる。

民間大衆に向つて防諜を宣傳する以前に、政府當局はみづから防諜とは如何なることからであるか政府のなしつゝあるところが直ちに防諜の精神に反してゐはしないかを反省する必要があるはしないか。眞の防諜の目的は敵性國人が知悉せることと自らを自國民に知らしめざるごとき愚劣な方法にあるのではなく、敵性國人に知らしむべからざることを知らしめざるに存するといふ原則を辨へてのちにこそ達成し得らるゝものである。(昭和十六年五月十八日「工業春秋」欄所載)

六十六 支那事變處理

本多大使の支那事變處理に關する意見は大方の賛意を獲得したやうである。支那事變を一個獨立の事項として取扱ふには大使の言のごとき處理方法より以外に良法とてはない。ことに南京政府を承認し西尾將軍の凱旋を見たる今日、南京政府強化の一本建で行くべきは論を俟たない。したがつて重慶政權にたいしその和平の意向を伺ふごとき首鼠兩端の方策は斷じて採らるべきではなからう。

英米の諸雜誌のいふところによれば日本の對支政策の弱點の第一は日本が如何にしてか速かに支那事變を終末に導かんと焦慮しつゝある事實であると指摘してゐる。從來の蔣介石を相手とする裏からの交渉を云々されるデマが常にわが國が支那事變から早く手を引きたい願望を持つものと解釋され、わが國の疲弊が到底事變のこれ以上の長期化に堪へ得ないとし、かれらをしてますます長期戦の臍をかためしめたのであるとすることデマは絶対に根絶せしめねばならぬ。

支那事變處理を世界總力戦の立場から考察すれば、支那事變は世界戦争の大環の一部であつ

て、世界戦争の終結を見ざるかぎり支那事變のみがひとり終段に達することは絶対に不可能である。かゝる世界總力戦の見地にたつて事變處理の方法を立案せんとするならばおのづからそこに異なつたる策政が生れ出るべきであらう。すなはちいふところの大東亞共榮圈の確立、あるひは大東亞新秩序の建設が軍事的にも政治的にも經濟的にも文化的にも完遂されてはじめて支那事變處理が完結すると見るべく、したがつて大東亞共榮圈確立または大東亞新秩序の建設の世界政策の一部分とし支那事變を取扱ふならば、支那事變處理てふ問題のもたらす苦痛が支那事變を獨立の問題として取扱ふ場合に比しはるかに軽く、しかもまた極めて容易に解決に導くことができる。

由來わが國の政治外交は世界總力戦の見解に乏しく、世界的問題の一環を獨立の問題と誤解して取扱ふために、常に拔本塞原的解決を得るあたはざる憾みがある。現實の世界を謎の世界化せんとする中心勢力の打倒に向つて世界總力戦的作戦を実施するにあらずんば支那事變處理は百年黄河の河清を俟つがごとくであらう。(昭和十六年五月工業新聞「工業春秋」欄所載)

六十七 世界情勢と我國の立場

國策の大本を樹てるにも、物動計畫を定めるにも、その判断基礎となるものは、世界情勢の歸趨如何である。ドイツがバルカンを制覇し地中海からイギリスの勢力を驅逐せんとする企圖にして成功せんか、イギリス本土の攻略の成ると成らざるとにかゝはらず、英獨爭覇戦の一應の幕切れが來ると見なければならぬ。ソ聯邦においてスターリン氏が前景にあらはれ國政を明暗兩所ともにその掌中において操縦するにいたれるは、明らかにバルカンならびに近東および地中海におけるドイツの決定的勝利をみとめ、今にしてたゞずんばドイツをして獅子の分前を得せしめ、多年宿望のインド洋への出口を獲得する機会を逸するなきやを懸念せるによるものと断定し得る。

すなはちソ聯がイランとの修交を回復しイラクの地位を確認しアフガニスタンに秋波を送るは、その西南方經略の觸角の徴動を象徴するものであつて、つぎに來るべきス氏の巨腕が如何なる手を打つべきかは想像にあまりありといふべく、吾人の刮目、凝視するところである。

ソ聯をして西南方において志を遂げしめることは、やがて彼の東亞における恣意を抑制しもつてわが國の大東亞新秩序建設の聖業に間接的に協力せしめ得る情勢を馴致するに役立つはずである。かゝる東半球の有利なる情勢を利用してわが國が強力なる總力戰態勢において外に臨むならば志の一として成らざるなきは明かである。英米兩國が如何なる恫喝をもつて、あるひはまた如何なる好餌をもつてわが國を誘惑せんとしても政府當路者にしてこの國際情勢の有利に棹さすならば支那半變の處理はもちろん、凡百の國內外の問題も容易に解決し得るであらう。

アメリカ大統領の援英方策が行詰りを生じたのも、世界情勢のしからしむるところであつて、しかも今後とも英米兩國に不利なる情勢の累加すべきは豫想に難からず、かゝる反英米的世界情勢が、我國の英米にたいする好意的態度によつてその悪化を阻止しつゝある實情に想をおよぼすならば、今後の世界情勢を如何なる方向に向はしむべきかは、一にわが國の態度如何によつて決定され得ることであり、今次大戰の結末を如何にあらしむべきかの運命の綱はわが國の把握するところである實相が理解できると信ずる。(昭和十六年五月二十一日「工業春秋」欄所載)

六十八 戦時金融會社創設を提唱す

結城日銀總裁が過日發表せる意見のうちに戦時金融會社創設の意向を有するやに見ゆる點があつたが、われらもまたつとにかゝる企圖すなはち全國銀行の出資による戦時金融會社を設立して、戦時の特殊性に適應せる金融疏通の途を拓く必要あることを認めてゐるものである。

普通市中銀行の本來の性質上、戦時の特殊性を有する金融に全的に貢獻することは不可能であつてその沒我的犠牲を求むるは求むる側に無理があるともいひ得ないではない。もちろん國家非常時にあたつて市中銀行業者と雖ども算盤ばかり持つて行動することは許されないのであるが、さりとして算盤をまつたくすてゝやれといふことは、預金に基礎をおく信用機關であつて見れば多少苛酷な要求のやうにも思はれる。したがつて市中銀行の相互保險組織の意味をもつ戦時金融會社をつくつて、市中銀行自身が直接取扱ひ得ない特殊金融を取扱ふことにすれば、時代の要求する金融疏通の途が拓かれるであらう。

勸銀および興銀、とくに興銀が工業方面の特殊金融に特異の進出を遂げたことは、吾人の多と

するところであるが、日曹または理研の事件にかんがみて金融機關の冒險的行爲について一應の反省を促したい氣持がする。かゝる氣分は多分に保守的ではあるが、事業の性質を克く吟味し縮めるべき手綱は縮め、伸ばすべきものは伸ばす炯眼を金融當局に要請せざるを得ぬ。しからざれば資本の浪費による國家の損失はけだし甚大なるものがあらう。

由來資本、ことに金融資本は神經過敏であるが、それは負擔に歸すべく危惧される危険が直接自己にその絶對額のまゝ落ちきたる場合においてであつて、もしそこに保障機關があつて、危険が間接的に、かつ分散的にきた場合は案外鈍感な場合が多い。かゝる金融資本の鈍感性を善用して長短各種の信用許與が行はれ得るならば、社債賣行の不振とかその他の金融不圓滑の現象がある程度まで解消するものと思はれる。なほ政府が戦時金融會社にたいしなんらかの保護を與ふるならば、一層その成立を容易に、かつ運用が滑かなるを得るであらう。

(昭和十六年五月二十八日工業新聞「工業春秋」所載)

六十九 官民協力の目標

官界新體制の立案を民間側に求めた政府の態度は推奨に値するものであるが、民間側の提示した新體制案もまた一讀官海の暗礁の所在を指摘して、政府の要請に答ふところがあつたやうに見える。言論界一般の批判も決して悪くはなく、吾人もひとしく民間當事者の勞を多とするものである。しかし吾人の見るところを以てすれば、そこになほ未だ民間の要求に於て缺くところがあるやに考へる。

今日の官界の弊風の起りはその根源極めて深く、單に民間人の若干を傍系的に官界に登用したり、事務の簡捷を圖つたりすることによつて除かれ得るものではない。民間經濟界にあつても派閥の弊なきにあらず、父祖の威風を狐の虎におけるがごとくに利用して、凡庸の徒輩が事業界の首腦に居る例に乏しくはないが、然し事業成績の上から見てその經營の實權は有能なる實力者が握つて居ることは、殆ど例外なしにさうであると言ひ得る。

然るに官界にあつては派閥の弊甚しく有能達識の士必ずしも用ひられず殊に法學萬能の弊害は

救済すべからざる程度に達して居る。最近經濟關係各省において技術者優遇の途を拓いたけれども、眞に經濟の途に通能せるものを重用するまでに至つて居ない。今日の經濟統制を修正し中正圓滑なる運用を期するには、人格識見の高邁なる經濟人を極めて多數經濟關係各省に重用し、然もそれ等の人々が實權を握つて經濟行政を施行する迄に至らなければ、從來の採用方針にて法科生から登用せるものをして權力の地位に就かしめたまゝでは、決して官界の新體制は成し遂げられるものでない。

官吏任用令は官吏の人格識見による登用を規定せるに非ずして、その法律的、智的素養を主題として任用を決せんが爲に作られたものである。従つて經濟界をリードして統制を完からしむるがごときことを之等の被任用者に望むことは望む方に無理があるとも言ひ得る。陸海軍人は實戰的訓練を経てゐるがゆゑに、事實に即して物を考ふる慣習に馴致されてゐるも、文官人は机上觀念論に終始する傾向を如何ともする能はざる實情である。この根本にメスを入れざれば到底官民協力の實をあぐるに足る官界の新體制を所期するを得ないであらう。

(昭和十六年五月二十八日工業新聞「工業春秋」所載)

七十 價値の顛倒

あらゆる社會現象は價値批判の變化現象であると見ることが出来る。國家主義といひ、民主主義といふも、要するに價値判斷の基準が國家目的に置かれるか、個人目的に置かれるかに依て生ずる分裂であつて、價値哲學を離れて其解釋を遂げることが全然不可能である。最近ある人が支那事變の前半期は土工農商であつたが後半期に入つては士農工商になつたといつた。まことに面白い觀察であつて國民の身分價値が、事變前の商工士農の順序から前記の如き價値排列に變化したことを認めざるを得ない。

第一次歐洲大戰後の世界思潮の廢類から或る時期には武士階級とも見るべき軍人が全く輕視されて、わが國に於ても軍人が公衆の面前で侮罵を受けた事例さへ生じたほどであつた。デモクラシーの惡思想は全世界を風靡し、世界無比のわが國體さへ汚濁されんとする危機すら感じられたのであつた。國民の身分價値は商人萬能時代そのまゝの順列を示現して商工農士の階級が明瞭に認識された、わが國にては滿洲事變、ドイツにおいてはナチス政權の登場、イタリアにてはエチ

オピア事變以來、武士階級の價値上昇によつて商工農士は商工士農に、それはさらに士商工農から土工農商にまで變遷したが、前述せるとほり國民生活必需資料自給の見地から農産階級の價値は俄然上昇してつひに、士農工商の身分價値階層の形成を告ぐるにいたつた。

かゝる身分價値の觀察はマルクスの階級闘争觀にあらずして、國家目的の要請に對應する、國民の職域奉公の價値階段の觀察にほかならず、この社會現象をもつて非健全現象とするはあたらず、むしろかくのごとき身分階層の價値順列現象を生ぜしめたる世界的情勢の必然性に着眼して爲政者たるものは深甚の考慮をその將來性について拂ふ必要がある。現下の世界的争鬪戰の終末後に來るべき世界思潮が如何なるものであらうか、戦後の國民思想を善導するうへには如何なる對策が必要であらうか、思ひをかゝる重點にいたすならば、吾人は國民身分階層の價値顛倒の將來觀について深き省察をせまられつゝあるの感強からざるを得ない。もつて大方識者の熟慮を煩はず次第である。(昭和十六年五月三十日工業新聞「工業春秋」所載)

七十一 形式的物價政策を排す

商工省物價局は九・一八價格停止令を來る十月十九日をかぎりとして解除し、それまでにそれに代るべき均衡適正價格を公定して物價政策の適正化をはかる意向を持つことを聲明した。かかる聲明は多分に當局の物價對策についての決意と實踐力を示唆するものにして、吾人の大いに歡迎するところである。

元來公定價格による物價政策は、その定むるところの價格に合致するとき需給關係を豫測して施行さるべきであつて、需給關係の將來性に顧慮するところなく、價格を漫然と公定するがごとき從來のやり方は、需給の均衡を破壊するのみに役立つて、何らの貢獻を戰時經濟に致すものではない。

低物價政策は戰時財政を破綻ならしむるためにぜひとも採用さるべきではあるが「低物價」の標語にしがみついて需給關係はもちろん生産企業の維持、生育を忘れ、他方闇相場、闇取引の横行を來さしめては何處に低物價の效ありやと問はざるを得ない。すなはち形式的低物價のため

に實質的高物價を招來せるとき物價對策は、全然物價對策として失敗せるものと云ひ得るのである。

なほ一步をすゝめて論ずれば物價政策の跋行から結果する物資の偏在、偏流ならびに退藏のもたらす物資缺乏の偽裝現象は、敵性國家群にとつては我國經濟力枯渴の好個の宣傳材料となり、ことに重慶政權の長期抗日の決意を一層強化するに多大の效用を供與するものである。國家總力戰の見地から現在のわが國の物價現象を考察するならば、約言すれば一として功利的ならざるなしといひ得る。極めて高き地歩に立つて廣く事態を觀察して行かなければ千載に悔をのこすことゝならぬとも限らない。一事一物に拘泥して自己の取扱範圍の狭い量見で事務的な處理によつて今日の時艱が克服されると考へてゐては大變な間違ひを起す元となるであらう。

わが國の經濟力が戰時の急に應じつゝ均衡を得たる發展を遂げるを目標として萬端の施策をなすべきである。切にこの重大目的を逸せざらんことを望まざるを得ない。(昭和十六年六月一日工業新聞「工業春秋」所載)

七十二 懇談會の實相とその改善策

過般豊田商工大臣、小島次官其他部局長多數が大阪において業界各方面の代表者と二日間に亘つて懇談の膝を交へたことは、新任大臣の關西顔見せの意味から言つても悪い行事ではないが、商工省當局の實際界との懇談は從來幾回となく行はれてゐるが、懇談會の收穫として如何なる實情即應の善政が施されるに至つたかと言へば、殆ど何等實を結んだ例なしといひ得るのではなからうか。

懇談會そのものは催しとしては決して悪くはなく、新聞雜誌の記事として興味あるものゝ一として稱揚し得ると思ふのであるが、懇談會が言ひ流の聞き流では、寧ろ時間と費用の空費に歸し時局柄却つて面白からざるものと考へられる恐れが生ずる。然も懇談會席上の話が多くの場合抽象的であるため、具體的實踐の資料として價值が尠いやうにも思はれる。筆者の今日までの體驗からいへば業界代表者達は懇談會席上にては絶対に自己業界の真相を語らずといつて可なりである。勿論自己業界の有利な點に至つてはヒタ隠しに隠して外部の窺知することを許さざる一方、

自己業界に多少にても不利な點があれば、これを誇大に吹聲して幾分にても利分に與からんとする態度を採るに躊躇しない。

元來各業界の利害を代表して出席せる者が、國益優先の崇高なる信念から自己業界の不利を來たす問題をも率直に論議するものと考へることがすでに甘いのであつて、海千山千の古強者達は如何にしても尻尾を掴まれるやうな下手な仕草をしよう筈はないのである。政府當局が純眞なる心持をもつて接觸しても、民間人がかゝる態度を採るかぎり懇談會の結果として善政が生れることは絶無といつても過言ではない。筆者は頭初にもいつた通り懇談會讚美者であるが、懇談會の實相が多く上述の如きものであるとすれば、多くの期待を懇談會にかけることを得ないと思ふ。

従つて懇談會をして懇談の目的を達せしめるには一層多く批判的識見の秀でたる人物を集めて客觀的性格をより多く保有するやうにせねばならぬ。すなはち利害代表者と批判者とを一堂に會せしめて自由討議を可能ならしめることと仕組にせねば、懇談會をして施設の參考たらしむるを得ないであらう。(昭和十六年六月二日工業新聞「工業春秋」所載)

七十三 無報酬勤務者ウオツク

アメリカでは前歐洲大戰當時ワンダラーマンなる公務奉仕者ができて有産有識の士が年一ドルといふほど無報酬に近い勤務を國家に奉仕した。今次の歐洲大戰に當つてもこの制度が復活されたが、ワンダラーマンよりも一層徹底したもので、ウオツク=W. O. C. 即ち Working Officer without Compensation の略字にして無報酬勤務者の意なる制度が採用された。現在では有名なるストセン、ヒルマン、ステチナスなどをはじめ三百五十名を數へ、ワンダラーマン百六十餘名の倍數以上に達し、きはめて有效なる貢獻を國政にいたしてゐる。

吾人は敵性國家の眞似をするを潔しとせざるものであるが、かれが長所を採り入れてわれの短所を補ふに吝かであつてはならない。最近官吏制度改革の急が叫ばれてゐるが、官吏採用試験制度が現行法のまゝ存続し、法學萬能の弊が除かれなにかぎり制度の根本改革などおこなはれる見込みは到底ない。かゝる場合にこの弊害を緩和し政治行政の適正化をはかるには、アメリカにおけるワンダラーマンまたはウオツクのごとき制度を設けるべきだと思ふ。

商工省貿易局に森川某を採用したるがごとき例なきにあらざるも、一部局に一人や二人の實際人を採用しても殆んどいふに足る仕事ができるものではない。少くとも商工省に百名、二百名といふ多數の民間達識者を採用して行政の實際を掌握せしめねば、期待し得るとき効果を擧げ得ないであらう。

最近商工、農林などの經濟省の大臣、次官が最明寺時頼の先例に倣ひ實地視察を行ひ産業戰士を激勵する企圖ありと聞くが、それは決して悪い行事ではないけれども、それより以前に經濟行政が適正に行はれ得る如き制度を完備する必要があるのではなからうか。僅少の閑を見て若干の耕地と工場を視察するは、せざるに勝るではあらうが、それで經濟行政に關する問題が解決されようとも思はれない。今少し深いところに眼を注ぐ必要が痛感されてゐると信ずる。(昭和十六年六月五日工業新聞「工業春秋」所載)

七十四 諸事須らく徹底すべし

最近のわが國の政治・外交・經濟その他各般にわたつて國防國家體制完備のために徹底的なる

改組が要求されてゐるにもかゝらず、各方面ともに徹底的なる改造實踐がおこなはれてゐないやうに見えるのはまことに遺憾至極である。すべてが中途半端であり、石橋を叩いても渡らぬ式であり、如何にしても超非常時とは思へぬものがある。あるものゝ話によれば日獨伊三國同盟と親英米の兩建がますます強化されてゐるといふことであるが、これは一片のデマに過ぎないと信じてゐるけれども、三國同盟を基底とする國策の片鱗も國民は窺ひ知るを得ない。したがつてかゝるデマにも信を置かざるを得ないやうになると危惧される。

物價局が九・一八價格停止令を廢止して適正價格の實行に邁進せんとすると、早速企畫院側から反對が出て停止令廢止論が停止するといふ有様である。もと／＼一時的彌縫的な停止令などは一日もはやく廢止して均衡を得たる適正價格を物價全般に實施すべきであるにもかゝらず、形式としては停止されてゐるが實際は少しも停止されてゐない停止價格品が賣買されてゐる實情に目をつぶつてゐるのは、不徹底も甚しいといふべきではないか。

中小商工業の維持育成が叫ばれて半歳以上を経過してゐるが、實際に維持され育成された中小商工業者が幾何あるのか。最近では維持育成の方針を修正して淘汰強化の方針が採り上げられたと

報ぜられてゐる。したがつて浮ばれないのは中小商工業者で、机上の觀念的維持育成に期待した怨みは永久に消えないであらう。内閣が更迭したのならばぜひもないが、さうでないにもかゝらず朝令暮改では對象となる當業者が可哀さうである。

ドイツが西歐にバルカンに東地中海に赫々の戰果をあげてゐるのは何に原因してゐるか。ドイツが萬事萬端に徹底してやるがゆゑにあの好成績を擧げてゐるのである。今日のわが國のごとく諸事不徹底では、敗戦國フランスの轍を踏まないと誰が保障し得よう。官民朝野、一億同胞の反省を促したい。(昭和十六年六月十日工業新聞「工業春秋」所載)

七十五 發明の工業化

わが國における發明特許の許可登録件数は歐米諸國に優るとも劣らざるものもあるも、その工業化に至つては遙に後塵を拜するの憾なしとしない。最近問題になつた竹内博士の人工ラヂウム製造法のごとき物理學的に高程度の實證を要する發明のごときは別問題として、極めて卑近なる實用價値ある發明にしても、それが工業化されるがためには個人的に非常な忍苦を必要とする現状

は、生産力擴充の聲の大なる際朝野識者の一考を煩はざるを得ない重大事である。

發明協會その他の關係團體が近頃頗る本問題に關心を持ち、其等の團體の本來の使命達成に努力されんとしつゝあることは至極結構であるが、工業化の實をあげるには多大の資金を必要とするを以て、僅少なる寄附金とか會費の如きものを以て維持されて居る協會などの手にて、完全に期待を充たすがごとき成果を望むは無理である。かかる問題は資本家または資本家と密接なる關係を持つ人々の理解ある協力を得るにあらざれば解決し得ない問題である。政府の直轄機關にてはこれまた問題解決をはかり得ないのである。何ゆゑなれば發明は繁文褥禮的な官僚事務の間からは生れないからである。

筆者はかつて株式取引所關係者に勸説したことがあるが、株式取引所は今日のごとき時代においては差金追求の賭博場たる舊體制から蟬脱して生産擴充の第一線に活躍すべきである。而してさうするがためには先づ第一に、株取引所内に發明工業化助成機關を創設し、特許されたる發明の工業化に關する中間實驗を行ひ、その實驗に成功せるものについては直ちに株式組織による企業會社を創立して工業化の實を結ばせるならば、取引所は上場物件の創造によつて取引の繁榮

をきたし、資本家は投資の途を發見し、取引員は商賣繁昌し、發明者はその志を遂げ、國家は生産擴充の目的を達し、一舉數得の福利を齎すこととなるであらう。百が百まで順調に行くとは限らないが、一割二割の件數でも成果をあげるならば國利民福を増進すること蓋し尠少ではないと信ずる。取引所當局の熟考を煩はしたい。(昭和十六年六月十一日工業新聞「工業春秋」所載)

七十六 新農林大臣に望む

。石黒農林大臣辨任の後をうけて井野次官が印綬を帯び臺閣に列したことは内閣若返りの意味において慶すべく、また手腕家井野氏の解決に俟つべき幾多重要な農林行政問題の山積せる際、敢然として同氏の登場を見たるは斯界のため賀詞を呈するに足るものと思はれる。

由來農林省は産業組合の出張所の觀ありとまで酷評され、産業組合イデオロギーによつて農林行政が行はれてゐると信じられたほどに農林省と産業組合の關係は從來密接不可離の状態に置かれてゐたやうに見えた。これは産業組合の首腦者とか産業組合中央金庫の理事長とか、農林大臣とか次官とかに交流任命された事實から當然推論され得ることがらである。かゝる人事交流は農

林行政の實際化といふか適切化といふか、いづれにしても農林行政を机上觀念論化せしめないためには必要な方法であつたかも知れない。しかし産業組合の本來の使命を逸脱したるわが國産業組合の行動に照して、果してかゝる人事交流がわが國農林行政をその本來の姿において行はれ得せしめたるや否や多少の疑問なしとしない。

國をあげて國家總力戰體制の完備に努力しつゝあるときにあたつては、銃後國民の生活の運命がかけられてゐる農林水産業の使命たるや軍需産業となんら甲乙なき重要性を有するものであるといひ得る。かゝる重要な産業を統制し指導し管掌する農林行政はすべからず國家總力戰態勢完成の見地から行なはるべきものであつて、部分的な産業組合イデオロギーによつて左右されてはならない。工業も商業も農業もおのゝその分野において國家目的達成のために沒我的協力を致すべきであつて、工業は工業家のためのみ、商業は商業人のためのみ、農業は農家のためのみを目標として自己職域の利益をはかるに汲々たるがごときは絶対に許されない。

新農林大臣としてはぜひとも産業組合イデオロギーを放擲して國家總力戰の見地から農林行政を眞の國家的姿において顯現せしめるやう粉骨碎身されんことを切望する。(昭和十六年六月十

二日工業新聞「工業春秋」所載)

七十七 南方經略の將來

日獨伊三國同盟の成立はわが國南方經略の雄圖を實現する契機なりとして世界の注目をあつめたものであつたが、その後のわが國南進政策は足踏みをはじめ少しも進出の實をしめしてゐない。日ソ中立條約の成立によつてこの足踏みが解かれると思つたのは間違ひであつて依然として足踏みが續けられてゐる。海外電報はしきりに英米が對日軍備に狂奔しつゝあるおもむきを報じてゐるが、わが國のこれに對應する行動はすこしも耳にしない。最近足もとから鳥が飛びつたやうに對蘭印交渉の行詰りを報じて芳澤使節の歸國を促したが、かゝる交渉顛末はすでに芳澤使節渡印の前から豫測されたことがらであり、消息に通ぜるものにとつてはいまさら何をかいはんの感なきを得ない。

近衛首相の談としてさきごろ發表された南方經濟進出の方策には何人も反對しないであらうが、經濟謀略にかけてはわが方よりも二枚も三枚も役者がうへの英米の經濟戰に對抗してそれ相

當の成績をあげるには、今日まで支那大陸において採用されたるごとく宋襄の仁に似たる經濟政策を執つたのでは全然發展の機會を國民に與へ得ないであらう。もちろん東洋君子國の態度が望ましく、英米式掠奪方略を眞似るべきではないが、宋襄の仁だけはせひとも見合せてもらひたい。英米人が百の利益を得つゝある間にわが國民だけが海外にあつて、十、二十の小利に甘んぜなければならぬ理由はない。海外にて儲けられるだけ儲けるのがわが國にとつての利益ではないか。敵性國人に利益をあたへて指をくはへて見てゐる筋合ひではないと思ふ。

國內におけると國外におけるとは物の考へ方を變へるべきではなからうか。わが國は千古未曾有の國難に遭遇し朝野をあげて時艱克服に邁進しつゝあるのではないか。その際に自國の國力充實に役だつものは誰に遠慮もなく正しき方法において獲得すべきである。辭を低くして他國に憐みを乞ふの必要は寸毫も存しない筈である。主客を顛倒したる經濟外交は國威の發揚を害するのみである。南方經略には今後一層の勇略こそ望まじき限りである。

(昭和十六年六月十四日工業新聞「工業春秋」所載)

七十八 實質的低物價を望む

大政翼賛會第一回中央協力會議の議題の一として採り上げられたる物價問題に關する論議を検討して見るに、公定價格引上げを可とする主張も之を否とする主張も俱に全體的經濟均衡の何物たるかを忘れて、徒らに或特定物資の價格と増産の損得とを論議の中心課題としてゐたやうに思はれる。我國において特に感ぜられる事柄は、物の觀察方法が偏倚して綜合的、全體的觀察の一般に缺如せることである。言葉を換へて云へば、總力戰的見方の行はれない缺點が觸目されるのである。

千類萬種にのぼる各種物資中の一、二をとりあげ、しかもそこに特殊の生産分配條件の存するものを選び出して、それに對する價格對策の特異性を忘れて普遍的原理が恰もその對策において存する如く論ずることは論理的に許され得ないのである。例へば米價を引上げても小作人の多い我國農村を潤し米の増産に寄與するものでないと云ふ議論の如きがその著しい一例である。政府當局は自作農創設に努力し自作農經營の適正規模を研究し農家と農耕地の地理的關係にまで修正

の手を下さうとしてをるではないか。若しこの方針にして嚴守されつゝありとすれば米價修正とかゝる農業對策を結合して、そこに眞に適切なる方策が樹立され實施さるべきである。不合理なる農地所有の現狀に眼を閉ぢて米價の歪を規正する善政の實施に勇ならざるは果して爲政者のとるべき方針であらうか。

現在の凸凹物價の爲に物資は隱匿され偏在して、そこに偽裝缺乏の悲しむべき事態が露呈されてゐる。かゝる事象を根本的に正すには生産業者、配給業者、消費者の何れもが已れを空しくして公に奉ずるの心構へが必要なるはいふまでもないが、如何に心構へが出来てゐても企業經濟の成立を害し家事經濟の破綻を招くごとき價格機構を強要されたのでは、自己の責任において生活を維持する民間人には到底忍ぶを得ない重壓といはなければならぬ。現今の大部分の商品が品質規格を低下して表面的には公定價格を遵守するかの如く装ひながら内實を二倍、三倍の實質的價格騰貴を來たしてゐる。實際に接して吾人は多少の公價引上げを行つても品質規格の戰前のそれへの復歸向上を望むものであり、さうすることによつて實質的低物價政策の堅持を將來に期待したいのである。(昭和十六年六月二十五日工業新聞「工業春秋」所載)

七十九 國際新情勢と工業界の覺悟

東條陸軍大臣は本社發行にかゝる「兵器工業」なる機關紙を持つ兵器工業會の總會に臨んで、國際情勢の複雑怪奇裡に處して、わが國は一面聖戰目的完遂に邁進すると同時に、他面世界的變局に對應して、皇國を泰山の安きに置くの準備に缺くる處らざるべきを強調せるは、洵に吾人の意を得たるものと云ふべきである。

吾人は英米兩國さへも豫期せざりし早き機會において獨ソ開戦なる事實に直面して、果して東すべきか西すべきかについて明快なる判斷を下す餘裕を持ち得ない程の緊迫感に襲はれたのであつた。政府當局は未だ國是としての方針を中外に聲明しないけれども、東條陸相の兵器工業會における挨拶は、恐らく政府當局の意向を參酌して述べられたるものと看るべく、それによつて國民はほゞわが國の向ふべき方向を判斷し得たと思はれる。

國際間のことは晨に夕を測り知るを得ないを常とするとはいひながら、最近の國際情勢の變化はあまりに目まぐるしく凡庸の徒輩の克く推知し得ない突然異變を起すまでに急迫に急迫を重ね

るに至つた。しかし靜かにこの世局の變轉を觀察するに、自から恃むべき何物かを持つものゝみが克くこの變化に耐へ、難局を独自の判斷と独自の創意によつて打破し、そこに自己の生成發展の途を開拓し得ることが發見される。吾人がこの眞理を捉へこの眞理の指示に従つて動くならば、世界動亂の眞唯中であつて何をなすべきか明かに判定され、陸相の言の眞意が克く理解出来るのである。

吾人は、なかんづく國防國家體制の中核をなす武力體制の整備の一半の責任を負擔する工業人は、英米獨伊等の工業力に依存するの觀念を根本より排除し、自己以外に恃むべき何者もないことを克く肝に銘じ、國內における蝸牛角上の争ひを完封し協心戮力皇國の總力戰態勢を彌が上にも強化するために滅私沒我の奉公を致すべきである。獨ソ開戦の原因に想を致せば、吾人は一瞬の安を偷むことさへ許されぬ。吾々は茲に緊禪一番工業人の責任を業に先んじて果すの覺悟をもつて邁進しようではないか。(昭和十六年六月二十七日工業新聞「工業春秋」所載)

八十 工業技術と音楽

日本人は音楽的教養において世界の水準から遙かに低いところをるとは、常にいはるゝことであるが、然らばそれを如何にして高めるやの實際手段に到つては何物も考案されてゐない。近時のごとく超精密工業技術の要求されてゐる時代においては、繊細な音響に對する受感性の鋭敏さが極めて必要であることはいふまでもないのである。

従來の日本音楽は科學的基礎研究が皆無だといつていゝ位に、その方面の研究が等閑に附せられてゐた。殊に音階に關する研究は單に勘に一任して顧みられなかつた。従つてそこに音階に關する受感性の鋭敏さが存するともいひ得ないではないが、何ら分析的研究もなくまたその綜合における科學的取扱も起らなかつた。

國民一般が音楽的教養を持つには國民學校における音楽教育に俟つべきはもちろんであるが、それでは次代の國民に對してはある程度満足すべき基礎教育が與へられ得るかも知れないけれども、現在のかゝる基礎教育の缺けてゐる青壯年層に對しては何らの糧ともならないであらう。現

在の中堅層に對する音樂教育は學校教育的施設によつてなすを得ないけれども、ラジオ放送とか音樂會とか演劇伴奏を通じて相當効果的な社會教育が行はれ得ると信ずる。従つてかゝる目的に協つた方面にラジオ放送とか音樂會とか指導する必要がある。

東京の某劇場において映畫のアトラクションとして高級音樂演奏を試みつゝあるは時宜に適した企圖として推賞に値する。かくの如く不知不識の裡に産業人に音樂教養を體得せしめるためには、各種産業團體に於て一般工場に對する音樂教養の共同施設を持ち、巡回して工具に接觸する機會をなるべく多く作る如くすべきであらう。しかし此處に忘れてはならないのは、その音樂が高級科學的であるべくして低級卑俗であつてはならないことである。最近の我國のラジオ放送における交響樂協會の演奏とレコード音樂を除いた他の音樂ならびに歌謡は、卑俗でなくば單調であつて純粹音樂情操を養ふに何らの利益をも齎らさないのを遺憾とする。朝野識者先覺の深甚なる考慮を煩はしたい。(昭和十六年六月三十日工業新聞「工業春秋」所載)

八十一 指導者の責任

聖戰五年を閲して今なほ支那事變終焉の見通しをつけ得ず、最近に至つて獨ソ開戦といふ不測の新事態に直面し、その推移如何によつては皇國の前途に容易ならぬ難問題の生ずべき秋にあつて、國民一般に如何なる心構へをもつて處すべきやの指針の明示がいたく要請されるにも拘らず、旬日の久しきにおよんでなんらの方寸も教示されないのは實に遺憾至極である。

デマの横行を取締るのはよいが、デマの生ずるやうな情勢を馴致して顧みぬのは果して指導者としての責務を盡したといへるであらうか。近衛内閣成立以來、指導者原理の唱導さるゝこと頻りにして、而も今日のごとく指導者の指導を必要とする時代は稀であるのに、なんらの指導性を指導者に求め得られぬのはどうしたわけであらうか。恐らく従來の指導者主義は單なる觀念論であつて實踐に關する固い信念を缺いてゐたがためであらう。

高度國防國家の建設といふことは國家を重戦車または重爆機型に仕立てあげてを意味するものであると聽いてゐる。わが國は未だ高度の國防國家體制にまで完成されてゐないであらうが

すくなくとも國防國家の概念に當てはまる程度の體制に一應は成つてをると信じてゐる。換言すれば輕爆機または輕戰車程度においても響の音に應ずるやうにあらゆる事態に即應し得る態勢を常に執つてゐるものと確信してゐた吾々にあつては、現下の指導者の態度に對し聊か失望を禁じ得ないのである。すなはち茲にも國防國家の觀念論のみ盛んであつて實踐がそれにともなつてゐなかつたのであらうと思はれる。

今次歐洲大戰の勃發に際會し國際情勢の變轉の將來に鋭い徹透した觀察力を有するものは、我國を自給自足の經濟國たらしめる方策を採らぬ限り、國家の隆盛は期し得られないことを力説したのであつた。しかるに海外依存の儉安を以て國家を泰山の安きに置き得ると誤信し、自主獨往の勇氣を缺いだ誤れる政策に災ひされ、現下の危局に對し利刃一振の英斷に出ることが出来なくなつたのは返すがへすも遺憾至極である。所謂指導者をもつて任ずるの士に責任の重んずべきを警告せねばならない。(昭和十六年七月一日工業新聞「工業春秋」所載)

八十二 國家主義統制の批判

日本主義陣營といふか國家革新主義團體といふべきか、いづれにしても從來の資本主義經濟組織を打破して皇道に即する日本本然の姿における經濟制度を確立すべしとなす主張を持つ人々の集團が、一頃非常な勢力を揮はんとした時代が極めて近き過去においてわが國に存在してゐた。もちろん今もなほかゝる團體の存することは事實であるが、しかしその勢力は非常に脆弱化されたやうに見える。彼らのいふところにして眞ならば我國は當然、資本主義經濟體制を採用せる誤謬を訂正して革新體制を確立すべきであつた。しかるに事實は反對の方向に進展して資本主義經濟體制はますます強化され彼等陣營の勢力はいよゝゝ弱體化しつゝある。かゝる奇異の事象は果して如何なる原因によつて生じたのであらうか。

企畫院、大藏省、商工省、農林省等に存在したと云はれる左翼型革新官僚若手群の主張が、之等經濟關係省の行政に何程の影響を與へたかは不幸にして知るを得ないが、筆者寡聞の故か殆ど何等の影響も與へなかつたといつても誤りではないと考へる。何故なれば各經濟關係省に於て指

導しつゝある經濟統制は殆ど悉くが大資本への集中を目指して邁進を續けて居る點に照して、およそ革新主義者の唱ふるところと正反對の方向に向つてゐることが看取出来るからである。某紙の傳ふところによれば某大實業家が經濟統制といふものは、こんなに金を儲けさせて呉れるものとは知らなかつたから反對して來たが、かう儲かるものならば今後は絶對反對しないことになると述懐したといふ話がある。革新派が目して舊體制とし個人自由主義者として排撃するこれら實業家をして、有難涙を流させることき經濟統制は、蓋し革新經濟體制とは全く縁なき衆生であるといふべきではないか。

闇取引を罰し、闇相場を摘發して、ひたすら經濟新體制即應の心構へを強要しつゝある半面において、個人自由主義經濟時代よりも以上に資本集中主義を尊重し、中小業者存在の餘地をせばめてをる現状は果して正常の形であるといひ得ようか。國家主義統制なるものは果して斯の如きものであつてよいのか。私は敢て政府當局の省察を切望するものである。(昭和十六年七月三日工業新聞「工業春秋」所載)

八十三 工作機工業の總力戰的意義

ドイツは某英誌が論ぜる通り恰も巢を張り繞らした蜘蛛のごとく歐洲の中央に座を占めて自己の好むがまゝの方向に獲物を求めて電撃を加へてゐるかの觀があるが、かゝる所謂内線作戰の至妙の戰術を實演し得る要因は多々あるであらうけれども、そのうちの最も重要な部分を占むる要素の一つとして工業生産力の大なることが擧げ得られると思ふ。

しかしドイツの工業生産力の大なることが重要要素として認められるには猶そこにその工業生産力の質の問題が伴つて居ることを看過してはならない。即ちドイツはナチス政權確立後舊來の工作機械、生産技術に劃期的革新を斷行し且つ最近には實戰の經驗を極めて豊富に採り容れて工作機械の性能を極度に高めつゝあるのである。従つてかくの如き優秀なる工作機械によつて生産されたる兵器は又極めて高き效率を示し百戰百勝の因をなして居ることは贅言を要しない。

米國の援英武器の效率が劣悪なのは他に種々の原因があるであらうが、工作機械の八、九割までが十年以前の儘であり何等進歩の跡を示してゐない事實に照して、那邊にその因が存するかを

知り得るのである。精度の高い機械によつてはじめて精巧なる武器が製作され得る道理は説明を待つまでもないことであるが、その實行に至つては言ふは易くして行ふの難き事實に直面せざるを得ない。

最近ドイツにおいては年數を経て熟練を積んだ工員を重用する代りに未熟練者の技術教育に重きを置いて未熟練工の急速なる科學的技能向上を實施しこれを高度精密機械に配置して容易に優秀性能の武器を吾人の豫想を絶したる速度を以て充實してゐる。すなはち勞力および技術の科學的總動員を行ひ總力戰の完遂を文字通りに實踐に移してゐるのである。我國が精密工作機械の自給に志してから未だ日が浅いけれども、國際情勢の變遷猫の眼の如き秋に當つて克くドイツの實戰の跡に鑑みて彼を凌駕するの勢を以て最も重要な意義を持つ工作機械の生産に邁進せねばならぬことを改めて茲に想起し、當業者の奮起を促す次第である。(昭和十六年七月九日工業新聞「工業春秋」所載)

八十四 暴利令強化の意義

政府は今回さらに暴利取締規則を強化したが、暴利取締令の發布以來、再三改訂強化が行はれたけれども、依然として該法令の趣旨に反する經濟行爲を冒すものが増嵩の傾向を示しつゝあるは國難を前にして洵に慨嘆に堪へざる所である。最近のイギリス内の實情を耳にして個人自由主義の國における經濟統制が如何に困難であるかを痛切に感じたが、洋の東西を問はず、私あつて公あるを知らず、自己を護るに急にして國難におもむくの覺悟なき國民を有する國家ほどあはれないものはない。否かゝる國家は國民なき國家であり、さらに嚴密にいへば眞の國家組織なき鳥合の社會に過ぎず、國民と稱さるべきはずの者は單なる國內居住者たるに止まるといふも過言ではない。

暴利取締令は非常時における國內經濟の均衡を保持し、極端なる利益追求の個人至上主義を制して舉國國難におもむかんとする心構へに基礎をもつて發布されたものであり、かゝる法令を必要とすることそれ自體が國辱を意味するものである。價格統制令ならびに幾多の經濟統制法

令が發布された今日においては、暴利取締令はその必要度が半減し、あるひは消滅したといつても差支へないのであるが、それにもかゝらず今日に至つてなほその強化を必要とする事態の簇生を見つゝあるのは經濟統制に關する諸法令になほ不備の點が存するためではなからうか。政府當局はこの點に顧みて暴利取締令以外の統制法令を再検討し、暴利行爲の不可能なることき法制機構を整備すべきであらう。

法網密にして細鱗をも逸せざらしむべきは論を俟たないが、私見をもつて、れば國民の思想にして健全ならば百千の法令を要せずして經濟統制は圓滑におこなはれ得るであらう。法は三章にして足るとは古聖賢の教へであるが、法三章にて足るを得るがためには法を遵奉すべき國民が國法を重んずる眞の國民たる心構へができてゐることを先決問題とする。こゝに國民の覺醒を促し爲政者が法を密にする前に何をなすべきか啓示されてゐると考へる。國難に臨んで暴利令強化をさらに今後必要とするがごとき事態の生ぜざらんことを祈念してやまない。

(昭和十六年七月十一日工業新聞「工業春秋」所載)

八十五 財政金融基本方策要綱發表

政府は時局の超非常時に鑑み財政金融の新體制要綱を決定したるは、極めて時宜に適したる措置であるが、吾人は寧ろその遅かりしを遺憾とする、世論は久しく財政金融體制が經濟諸體制の革新と隔絶して舊態依然たるを非難しつゞけて來たのであつた。しかるに今回政府が時局の急迫性にかんがみ遂に革新體制要綱を發表したることについて満足の意を表示し、その的確なる運用を政府に對しひとしく期待してゐる。

發表されたる要綱の文字上にはあらはれたる重要な諸點を點検して見るに先づ第一に政府歳出總額を豫め決定するに當り、國費支出能力の限度を測定して、それによつて財政破綻を未然に防止せんとする企圖は、今後の尨大なる戦費を可能の限度において滞りなく支出し得る途をひらいたものであつて、財政の安固をはかるうへにおいて最も上々の策といはなければならぬ。

第二に金融機構に關聯して、日本銀行を中心に各銀行を綜合的に經營して公債の消化、企業資金の調達等に就て萬全の策を講ぜんとするは、今日までの資金運用上の不圓滑を是正するうへに

大なる寄與をなすものと信ずる。

第三に外國爲替の運営に關聯して政府の協力を一層増強したることは、國際情勢の激變期に際して當然採るべき方法であるが、いたづらに外貨獲得に狂奔して却つて外貨の逃亡を招來するがごとき從來の拙策を繰返し、國庫負擔の増加に終るがとよなきやう戒心を希望せざるを得ぬ。

第四に有價證券取引機構の合理化をはかることは産業資金の流通性に直接關聯するものであつて、これを單に産業資金と無關係のものとして投機商品視することを避けなければならぬ。

第五に外地への資金供給に關してはこれまた外地の對日依存性に照して從來以上の考慮を拂ふにあらざれば戰線の安定にも影響を與ふべきをもつて格別の考慮を要請せねばならない。

最後に行政機構の改革は財政經濟運営の改善についてせひとも實行を要する問題なるをもつて切に當局の英斷善處を要望するものである。(昭和十六年七月十六日工業新聞「工業春秋」所載)

八十六 革新税制の目標

政府が今回發表せる財政金融基本方針要綱中に述べるところによれば「租税は財政資金の所要

に應じ必要な収入を確保するものとし計畫經濟運営との關係を稽へ一層合理的なる税制を設定するため「國民各階級各層が負擔を分擔する如く税種の新設及改變をなし」又「税率を改正して時局下必要な生産の助長、消費の規正、貯蓄の増強、購買力の吸収その他諸政策の遂行に資する如く租税政策を活用し」更にまた「財政資金の所要に應じ毎年度租税を増減する方針を採ることゝなつた。

租税が財政資金の所要に應じ必要な収入を國庫に確保すべき方針のもとに賦課さるべきは今さらこと新しく述ぶるまでもなき事柄であり、國民各階級がその能力に應じ公正なる負擔に任ずべきはこれまた贅言を要せざるところである。今日の超非常時に際會しては國民各階級はもれなく國費の分擔に任ずべきであるが、その分擔を如何なる方法において果すべきかが問題の核心であつて、それは生産の助長、消費の規正、購買力の吸収等の効果を狙ふよりもより以上に端的に物價政策との關聯性において考察されねばならないものである。消費税の増徴流通税の増課は果して低物價政策と如何なる相互作用を營むであらうか。考慮に上らねばならない。また貯蓄の増強と租税増加とが對蹠的である點にも留意すべきではなからうか。

吾人の見るところをもつてすれば今回の革新財政金融要綱中に述べられたる租税に關する諸事項の中において、その末尾に記載されたる毎年度の租税賦課増減制度の採用が租税技術上もつとも注目に値するものと考へる。これは一定の租税種目を確保してその税率を毎年の財政所要に應じて變更する制度であつて、税制の改正によらず税率の改正のみによつて財政目的に副はんとする極めて能率的な方法として推稱するに吝でない。

しかしながら國民のすべては國難に赴くの決意において相互に人後におちざるの自負心を持つものである。戦時租税の賦課に對してはそれが公正である限り如何なる重課にも耐へる覺悟を持つが故に、吾人は政府當局において課税技術の末端に執着せず、何處までも公正の原則に則つて戦時財政の健全なる運営を目標として努力されんことを囑望するものである。

(昭和十六年七月十三日工業新聞「工業春秋」所載)

八十七 全體主義と民主主義

民主主義の兩本山をもつて任ずる英、米兩國も對獨戦争の進展につれてその國內體制を彼等が

口を極めて非難してゐた全體主義國家たるドイツのそれに近似せしめるに至つた。殊に米國においてはルーズベルト大統領を傀儡とする金權世界制覇を目論見つゝある一派が遮二無二大統領の權限を擴大して寧ろヒットラーとかムツソリーニ以上の獨裁權を彼に與へてドイツ打倒の戦争に米國民を驅りたてようとして居る。従つて大統領が議會の協賛を無視して軍當局との私的談合によつて司令しつゝある軍事行動は、全く獨裁國のそれに彷彿たるものがある。かゝる政治が行はれてゐる米國においてなほ未だいはゆる民主主義が存在すといひ得るだらうか。

國民私經濟の絶對自由を保證する民主主義國において戦用資材の優先割當が行はれ、民需抑制による軍需補給の強硬策が採用されるにいたつては、經濟自由の原則は全く地を拂つて消失したものと云ふも過言ではない。わが國に於ける親英米派と稱せられる一派の人達にしても、又或は個人主義的經濟自由の原則こそ不磨の天則であると主張する人々にあつても、眼前英米の今日の狀態が開展さるゝに及んでは速かに變説改論せざるを得ないであらう。

歐米にあつては民主主義國においても全體主義國においても政治經濟百般の事すべて指導者原理によつて運営されてゐるのであつて決してその間に大なる差異の存する譯はないのである。唯

民主主義にあつては巧に指導者が自己の姿を隠匿して一般民衆の視野の外にゐて輿論なる假裝を通じて指導権を揮ふに反し、て全體主義國家にあつては指導者が明白に自己の姿を大衆の前に現はして指揮棒を揮ふに過ぎない。従つてその間に本質的になんらの差も存しないのである。かくの如き民主主義の實體に觸れるならば米國又は英國における指導者らが如何なることをなしつゝあり又なさんとしつゝあるかが判然と理解し得る。

吾人は民主主義國の假面を剥いでその巧妙なる思想戦に征服されざるだけの覺悟を必要とするものである。(昭和十六年七月十六日工業新聞「工業春秋」所載)

八十八 獨ソ戦の進展と我國の立場

獨ソの戦進展はドイツ軍の豫定通りに進捗してゐるやうに見えるが、しかしいまだその終結の如何を斷定するには時期尙早の感なきを得ない。

しかし獨ソ不可侵條約を基礎として樹てられたる世界の一應の新秩序は英米自給圏、獨伊自給圏、ソ聯自給圏およびわが日本を中心とする大東亞自給圏の四者によつて構成されるものと考

へられてゐた。しかるにドイツが敢然起つてソ聯を打倒せんとし、もしその企圖が完全に成就するならばソ聯自給圏は崩壊して一層廣大なる獨伊自給圏が成立するであらうことは疑なきところである。

ソ聯自給圏の崩壊が直接わが國におよぼす影響はもちろん少からざるものがあるけれども、從來の日ソ間の經濟關係に照してわが國の經濟的自立性の根本條件に變化をもたらすごとき重大なる影響のなかるべきは想見に難くない。今日のわが國が經濟的自立性を確保するに要する物資の大部分は北方に存せずして南方に存する事實にかんがみ大東亞共榮圏の範圍が如何なる廣さを有すべきであるかはいはずして明かであらう。

わが國が目前の獨ソ戦の進捗によつて影響さるゝ處少からざるがために心をその方面にのみ奪はれて南方における共榮圏の確立に對する努力を絶対に怠つてはならない。蘭印が大東亞共榮圏への抱擁を謝絶せるはわが國の崇高なる皇道政治の眞諦を解せざるがためであつて、そこにわが國外交の局に當るものゝ爲すべきことがら啓示されてゐるやうに思はれる。

近衛首相のいへることくたのむべきは自力のみである。しかし一度樹てられたる國家の大理想

想は何處までも達成する覺悟をもつて邁進すべきでありそこには疑惑の片鱗でも存在するを許されない。大共榮圏の中心地たるわが國の立場に動搖があつてはならない。政をなすものは克くわが國の這個の立場を忘れざるやう必成の信念をもつて時局に對處せんことを切願する。(昭和十六年七月二十二日工業新聞「工業春秋」所載)

八十九 低金利の時局的考察

財政金融に關する新制度の要綱が先般發表されて、財政方面においては今十六年度の歳出についてさへ緊縮を旨とする實行豫算がさらに新しく組まれることとなり、金融方面においては起債市場の活躍を便ならしむるため日本銀行の貸出率が五厘方引下げられ、新制度が着々實行の緒につきつゝある感を強くするのであるが、しかしながら金利引下げの如き方策の採られる根本理念に遡つて研究するならばそこになほ舊體制的經濟理念の殘存が認められはすまいか。

政府は悪性インフレを懸念し物價統制の部面における不合理に眼を閉ぢて只管に浮動購買力の吸収に努力を傾倒せんとしてゐるにもかゝらず、金融的ブームの原因たる金利引下げを行つて

財政金融新體制に即する方法なりと考へるならば、それは誤りで恰も一昨年秋に農林省が米穀とか煙草の値上げを斷行して商工省の物價抑制政策に反抗したのと異曲同工であるとまではいひ得なくとも少なくとも低物價政策と並行的であるとはいひ得ないと考へられる。

元來低金利は長期的に見ては貯蓄を増嵩せしめるべき合理的作用力を有するけれども、短期的に考察する場合それは全く國民貯蓄心の減殺をきたす有力なる原因となるものである。ことに現下のごとき時局に當面して長期的生活設計の困難なる場合においては金利の低下は貯蓄増加を阻害し換物運動を促進する作用をのみ營むものである。

金利の操作によつて證券界の浮沈を左右せんとする考へ方は全く金融市場を自由市場と看たる結果から生ずるものであつて、金融に關する統制的な何ものも存しないといつても過りではない。新政策夢綱の趣旨はかゝる金融自由市場觀を排棄して眞の統制ある金融體系を樹立するにあつた筈である。あるひは説をなすものは今回の利下げは日銀貸出金利だけであつて一般預金利率の引下げではないといふかも知れない。しかし日銀の貸出利率の引下げは一般金利低下の先驅をなすものであり、心理的に影響するところ極めて大であることに留意せねばならぬ。あへて當局

の考慮を煩はしたい。(昭和十六年七月二十六日工業新聞「工業春秋」所載)

九十 時局の重大性に目覺めよ

時局の重大性が叫ばれて居るが果してそれが何程まで重大であるかについて明確なる認識を持つものが割合に少ないやうである。英米等の經濟封鎖についてもなほ一縷の疏通の途があるのではないかとの希望をつなぐものがめる。かくの如き望むべからざるものを望む心理は全く英米依存の心理であつて、英米が日本國內居住の自國民を歸國せしめたり、商社、銀行等の支店出張所を縮小閉鎖したり通商條約を廢棄したりなどして、今日迄順次經濟封鎖の強化を進めて來た巧妙なる手口に徴するならば我國民の英米依存の心理が如何に巧に利用されて來たか、明かになるであらう。

元來我國の興隆を好まず、何等かの方法によつて日本を壊滅せしめようとする英米の魔手が支那事變を勃發せしめた元兇であり、この元兇に依存せんことを冀求すること自體が全く矛盾したものである位の理窟は國民の常識であるべきにも拘らず、また英國がポーランド、オランダ、ベ

ルギー、フランス、ノールウェー、ギリシヤなどに約束した援助が如何なるものであつたか、また如何なる結果を齎したかを検討するならば、英米依存政策を採つた後に來るべきわが國の運命が如何なるものであるであらうかを推知し得るにもかゝらず、今なほ英米依存の心理を捨てかねる人士のあることは吾人の理解に苦しむところである。

窮極において敵の毒酒に酔ひ殺されると知りつゝ、その毒酒の誘惑に打ち勝ち得ない弱者の心理としては、身を捨て、こそ浮ぶ瀬もあれといふ強者捨身の戦法の心理を理解することは不可能であらう。ひとときにも永く安眠をむさばらんと欲するは人間共通の本能的心理である。しかし鍛錬は克くこの無益の惰眠を必要としない心身を作り上げ得るのである。敵は毒酒を盛るか首を締めるかの二つの方法を以て吾人に迫りつゝあるのである。毒酒を飲んで惰眠を貪るべからざるの理を稽ふるに於ては、吾人は捨身の戦法により死地に活路を得るの勇氣と覺悟を更に新たにせねばならない。時局は二途何れを選ぶべきかの判断を許さない點に到達してゐる。捨身戦法が採らるべき唯一の途である程、左様に時局は重大であることを吾人は認識せねばならない。

(昭和十六年八月六日日刊工業新聞「工業春秋」欄所載)

九十一 物價對策の新方針について

物價對策審議會は去る十二日の總會に於て(一)低物價と生産増強との調整に關する件(二)米價對策に關する件(三)鐵鋼價格對策に關する件の三議件を議決して、政府の採るべき物價對策の新方針を明かにしたことに對して吾人は讃辭を呈するに吝かでない。

しかしながら右三議件の議決を見るに至つた根本精神に於ては依然として從來の物價政策の舊套から脱し得ないで拔本塞源の何ものも見出し得ず、一時的糊塗の方便に終つたことを遺憾とせざるを得ない。

第一議件の低物價と生産増強の關係の審理方法について述べられたる各項目は今日まで識者によつて論議され指摘され來つたところのすべてを網羅して剩すところなきがごとくであるが、ここに政府當局に對し留意を希望したきは、商人階級に對する壓迫が餘りに強きに過ぎその方面において多くの失業者を生ぜしめる恐れある點である。生産擴充の必要がもつとも多く痛感さるゝ際に於て、中間配給業者の利益を排除して生産者の採算を良化せしめんとする考へ方は一應は承

認し得るのであるが、配給業者もまた國民であり、それが健全なる國民として自活し得る途を講ずることもまた政府の責任であると思はれる。

今日までの政府の生産者尊重方針には行き過ぎと思はれる點にまで達してゐる部面がある。例へば纖維の中間配給業者はわづかに一步乃至三步の口錢に甘んじなければならぬにもかゝらば、絲の生産業者および織物の生産業者はそれに數倍し十數倍する利益を貪つてゐる事實がある。かゝる生産業者の過當の利益を配給業者に分與して健全なる自活の國民たらしめ、社會政策的救済の對象たらしめざる心掛けが政府當局に對し要請されねばならない。

非常時局下における銃後戦線に失業あるひは半失業状態の國民を一人でも多くすることは極力避けねばならない。低物價のスローガンに執着するのあまり、國民生活組織に破れ目のできないやうな配意を要望せざるを得ぬ。(昭和十六年八月十四日日刊工業新聞「工業春秋」欄所載)

九十二 英米共同宣言を糺す

「英米兩國はあらゆる國が國の大小ならびに勝者たると敗者たるとを問はず世界的な通商およ

び原料資源の享受を促進するやう努力するものである」と。これは十四日ホワイトハウスにて發表されたルーズベルト米大統領およびチャーチル英首相合作にかゝる英米共同宣言の一部であるが、これと同巧異曲のことをこれよりさきアメリカ國務次官ワエルズ氏も述べてゐる。すなはち世界戦亂の終焉後における世界秩に序ついで「現時の大戦終了後世界各民族はおのおのそのところを得て原料食糧について欲するまゝの満足を興へられるであらう」と、かさね々まことに結構至極の託宣である。もしこのことがこの度の大戦以前においておこなはれてゐたならば恐らく英獨争覇戦より延いて世界大動亂にまで發展せんとする現下の民族闘争の大仕演を見ずに済んだのではあるまいか。

世界に國をなす幾多の民族中アメリカほどめざまれたる本土に建國の歴史をもつものは他に見出し得ない。またイギリスほど各種の資源を十二分にもつ植民地屬領をもつたものも絶對にない。しかもこの二國ほど他の持たざる國々に對して排他であつたものも少ない。すくなくとも英米二國が原料食糧の獲得についでかれらが日常の標語として使用する正義人道の倫理を他の世界の弱小國に對して實踐して呉れてゐたならば、世界の平和は絶對不壞であつたであらうと思はれる。

る。

世界の秩序を破壊するものは樞軸國であるとの英米の主張は謀略的宣傳としては價值あるも、樞軸國をして英米的舊秩序を破壊すべく蹶起せしめた原因は、英米兩國自からがつくつたものである。みづからのつくつた要因には蓋をして他を責めるその厚顔無恥の謀略的行爲に至つては、到底東洋君子國に住むものゝ想像も及ばぬところである。しかも今日に至つて鬼の念佛にひとしい將來の理想を説いて他を欺瞞せんとする心事は眞に唾棄すべきものがある。

ル米大統領チャ英首相ならびにワエルズ次官は果して如何なる考へをもつて前述のごとき言説を吐いたのであらうか、けだし謀略宣傳の目的に出づるものであることは明かであるが、右三人の人が自らを欺くがごとき言動をなす裏面には何らかの重大な原因がなくてはならない。樞軸國の主張をそのまゝ借り來つて自己の主張として第三者を欺くにはあまりに第三國が英米の常套欺瞞手段を知りすぎてはゐないか。眞に各國をしてそのところを得せしめんとするならば、今からでも遅くはない。アメリカ自らが醜然大悟して自國の行動を本然の軌道に還すべきである。茲に於てわれらは敢て英米の眞意を糾す次第である。(昭和十六年八月十六日工業新聞「工業春秋」欄)

九十三 戦時經濟體制の整備を急げ

わが國を圍繞する國際情勢裡に處して皇國の運命を開拓すべき秋に當り、獨ソ開戦前に於るとき微溫的な經濟體制の様式をもつてして克く時艱克服の大業が成し遂げ得られようか。わが國を最惡の國際場裡に置いた場合を想定して見るならば、何人もかゝる生半可な經濟體制をもつて難局突破が出来得るとは考へないであらう。

吾人が指摘するまでもなく對米輸出の停止せる今日なほ生絲の相場が百斤千數百圓の高き價位に居ることが何時まで許されるであらうか。生絲の相場を國用向に修正して織維の國內自給に役だせんとするならば、恐らく農家の收入に多大の影響を與へるに至るであらうが、これは早晩何らかの損失填補の方法を講じて需給關係の本然の軌道に乗るやうにせねばならないであらう。

各個の地方の事情は異なるであらうが概觀して生絲收入減少補填財源としては國民生活維持の見地から、また耕地轉用の立場から米麥などの價格引上げが執りあげられねばならない。今回政

府が農家の供出米等に對し採用したる獎勵金制度のごときは、實に前述の目的に向つて一步を進めたるものと看做すべきである。

また綿、人絹、スフ製品の國外國內の需給關係の變化から生すべき價格變動に對する方策も何ら講じられてゐない。その他凡百の經濟事項について最惡の事態に處する態勢が整へられてゐない。これらの各産業部門に對し速かに彌縫的ならざる體制整備を急ぐべきであり、A B C D包圍陣形の成れる今日、一時の安きを偷んで戦時經濟體制を躊躇するにおいては百年臍を嚙むの悔を遺すに到るであらう。したがつて獨ソ開戦前のごとき様態をそのままに維持することが戦時經濟體制の完成であるとは何人も考へないであらう。もちろんかゝる事態を招來したのは國民の時局認識が足りないためでもあらうが、政府當局の政治的手腕にも大いに缺くところがあるによるものである。時局の實相に徹せる體制の建設こそ望まじきかぎりである。(昭和十六年八月二十四日日刊工業新聞「工業春秋」欄所載)

九十四 地下資源探求に邁進せよ

大東亞共榮圈確立後における我國の自給經濟體制の完備については吾人は十二分の確信を持つものであるけれども、それ以前において我國として採るべき方策は先づ日滿支による最大可能の自給政策より以外に良法とては發見出來ない。しかし四圍の國際情勢より判斷して最悪の事態に對處し得るがためにはわが國內における資源について必要量を獲得する丈の方策が講じられてをらねばならない。

かゝる方策を實行するがためには既に發見され利用されつゝある資源について、更に一層有效なる利用率を産み出す以外に、國內未發見の地下資源探求に努力を傾倒すべきである。從來所謂山師といはるゝ部類のものが金儲けの手段に弄んで來た新山が意外の富鑛を包蔵する地下資源であつた事例は尠くない。しかもかゝる新鑛山の發見の大部分は偶然の機會によるものであつて、意圖的に科學的に發見に努力した結果に成るものは殆ど無いといつても過言ではなからうと思はれる。

電氣探鑛法その他の科學的探查の手段も勿論今日のまゝでは上述の目的に副ふだけの効果をあげ得ないであらうけれども、不完全ながらもとにかくそれらの科學的方法を全國的に試みる勇氣が欲しいのであるが、さうした報告に未だ接してゐない。これは筆者の寡聞の故のみでなく、實際に全國隈なく科學的探鑛の陣が布かれた事實はない。かくのごとき退嬰的な態度は筆者の觀るところによれば從來の地質學的判斷方法に累せられたものであらうが、在來の重要鐵山の發見の偶然性に照して地質學的判斷を超越しながら、しかも地殼深部に向つて科學的資源探求の陣營を全國にわたつて布かんことを切望せざるを得ぬ。

今日の國際情勢は資源の偶然發見に運命を任すには餘りに緊迫の度が過ぎてゐる。「科學する心」は國民常識の向上に關することき低級なる部面に沈潜するを許さない。探鑛科學陣營の總動員による資源探求こそ刻下焦眉の急務であらう。(昭和十六年八月二十八日日刊工業新聞「工業春秋」欄所載)

九十五 金の將來性と用金獎勵策

臨戰的産擴計畫に關する別項の政府當局の言明によれば我が國の金生産に對する方策は今後も從來と異なるところなく、依然として増産獎勵を續行することである。その方針に對して吾人は何等異論を唱ふる必要を認めないのであるが、金の通貨素材としての必要性和工業ならびに醫療用あるひは裝飾用としての重要性との間における差異に關する一般大衆の知識啓發に對する努力が缺けてゐるために、金に對しての正しき認識が成り立たず、したがつて政府當局の産金政策の將來に對して疑義を持つものが現はれるのである。しかしながら吾人の觀るところによれば一般大衆のみならず、その道の人々の間においてすら上述のごとき截然たる金用途の判別のうへに産金獎勵に關する意見を樹てゝゐるものが果して幾人あるかを疑ふ節々がある。

わが國における日本主義經濟論客の中には金の通貨としての價值を一國の金の生産條件から分離して取扱ひ、金を全然ユダヤ的なるものとして排斥するものがあるけれども、これは思はざるの甚しきものであつて金そのものに何らユダヤ的性格が固有されるのではなく、偶然にも世界の

産金地方を領有する國がユダヤ的政治の國であつたがために、當然の途を歩んで金の通貨價值にユダヤ的性格を興へたに過ぎないのである。若しわが國に毎年數億圓、數十億圓の産金があつたとすれば、金經濟をもつてユダヤ的諸國と世界經濟戰場に於て相見え得たであらうと信ずる、金は一種の方便であつて目的ではない。

金の工業的ならびに醫療的用途における價值は今後増しこそすれ減少する惧れは絶對にないであらうが、金の通貨素材あるひは引換準備としての價值については歐洲戰局の今後の推移に俟たなければ判明しないであらうが、米國に集積せる金が世界的に無價值となること馬鹿な眞似は國際金權者の敢てなす所ではあるまい。恐らくその金を利用して世界經濟を制覇するだけの手を打つことと思はれる。したがつてある一國が金を多く持てば持つほどこの侵略に對抗し得る力を一層多く持つわけであるが故に、この觀點からいつて我國の産金獎勵を續行することは絶對必須事であるといはなければならぬ。(昭和十六年八月三十日工業新聞「工業春秋」所載)

九十六 崇高至聖の目的を知れ

國際法上アメリカの日本海域を經由しての援ソ行爲は當然是認ざるべきであり、いはんや日ソ中立條約の成立せる今日においてはアメリカのウラチオ向け援ソ武器彈藥の輸送はこれまた日本にとつて問題とすべき筋合に非ずといふ法理論は（以下十五行削除）

しかしながらこれらの意見は純法理的な點に觸れることなく専ら我國の立場よりする政策的な論據の上に樹てられたものであつて世界普遍の理論を利器として國際的謀略に怪腕を發揮する國際陰謀團の思想戰略に對抗するには幾分意をつくさざるやに懸念されないではない。猶太的世界舊秩序維持のために作られたる在來の國際法を世界的普遍の眞理として諸國民を思想的に征服し來つたる過去の彼等の行動に照し、われらもまた我國の立場よりする政策的なものに依據せずして世界普遍の眞理として世界の人々が首肯するに足る理論を以て對抗せねばならない。

わが國は三國同盟を外交の基調とし之に配するに日ソ中立條約を以てし然も三國同盟は米國の參戰を阻止して世界的大動亂に至らんとする英獨爭覇戰を未然に局限せんとする崇高なる平和的

意圖に出づるものであり、且つまた日ソ中立條約は三國同盟の空洞を補填する意味からいって必須不可缺の平和至上主義の產物である。従つて獨ソ兩國の何れに對しても米國は戰爭援助をなすことはわが國の世界平和愛好の意圖に反するものであり、同時に絶對に世界人類の幸福に貢獻するものではない。わが國はかゝる至聖の目的を達せんがために米國に對し少なくとも對ソ援助を斷念せしめんとするに外ならない點を世界の人々が認識理解せんことを切望するものである。

（昭和十六年九月六日工業新聞「工業春秋」欄所載）

九十七 中等教育機關の轉換を急げ

時局の重壓による中小商工業者の轉廢業問題が屢々組上に上されてゐるが、その中でも中小業者は中間商人排除の傾向ないしは生産者擁護主義のために、中小工業者に比して格段の悲境に陥らざるを得ざる實情に在る。今日のごとき國際情勢が何時まで持續するかは吾人の判斷を許さざる事柄であるけれども、假りに獨ソ戰が獨逸の勝利に終つたとしても獨伊と英米との争闘は何時果つべしとも判明しないであらうから、まづ現在と類似の状態が相當ながく持續するものと考

へねばならない。従つて中小商業者の將來は自から決定されるわけである。

中小商業者の獨立自營の途がますます狭められるに従つて経営主ならびに従業員の國家的必要數がいよゝ減少するは必然であらう。延いて中等程度の商業教育を受くるものゝ數が自然的に減退すべき道理である。しかるに一方、中等程度の實業教育を受くる希望生徒數は人口増加にもなひ逐年増加の一途を辿るであらうがゆゑに、こゝに商業教育機關より工業教育機關又は農畜水産業教育機關への轉換が要請されるべきはずである。

即ち中等教育を志す青少年達をして將來の望み少なき商業より工業または農業、牧畜業、水産業などへ轉向せしめ國家的に最も多く必要視される實業方面に志を立てしめることは國家總力戰の見地からするも、あるひはそれら青少年個人の幸福の立場からするも等しく慶賀すべき事柄である。かゝる觀點に省察を加ふることなく今日なほ漫然として算盤簿記を主眼として教授する多數の中等商業學校をそのまま存置するは文教を司る政府當局者の怠慢といはなければならぬ。

かゝる教育機關の轉換は高等專門學校および大學にも要請されるべきであり、必要度からいへば或は寧ろこの方が一層その度が大であるかも知れない。兎に角に商業專門教育機關の過半を他

の産業教育機關に急速に轉換せしめる方策が一日の停滯をも許さぬ現下の教育界の喫緊事であると信ずる。(昭和十六年九月七日工業新聞「工業春秋」所載)

九十八 中小企業整理統合の緊急性

政府は工礦方面への勞務者動員計畫を果すために積極的に中小弱體企業の整理統合に乗り出した、なかんづく中小商業部面から多數の轉業者を期待してゐるやうである。かゝる中小企業の整理統合は國際情勢が今日のごとく切迫する以前において早手廻しに成し遂げられてゐるべき筈のものであるが政府當局ならびに國民大衆の時局の急迫性に對する認識理解の程度が充分ならざりしために多少手遅れの感なきにあらざるも、今からでも遲きに失するわけはなく、是非とも速急に解決せねばならない事柄である。

中小企業のみならず整理統合を要するものゝ中には大企業中にあつても今後急速に弱體化する惧れあるものが含まれるべきである。しかしこれらの整理統合の目標となる事業者はその整理統合によつて當該企業の繼承體と成つて存続するものが今後の國際的激闘場裡にあつて百戰不壞の

強豪的存在となり敵性國家群の經濟攻勢に對抗しわが國經濟組織を完全に守り通し微動だもさせ得ない状態に持ち來たす必要上の國家的犠牲であるとの觀念を抱くべきであらう。換言すれば第一線將兵の中若干名の名譽の戦死が皇軍大勝の基因であると同様の考へを以て、潔く職に殉ずるの覺悟を持つべきである。古語にいふ「身を殺して仁をなす」と。

戦時における中小企業の整理統合はあたかも防空市街建設と同一の理によるものである。すなはち空襲に對し脆弱なる多數の木造家屋を取り壊してこれに代ふるに不燃不壊性の高層巨大なる建物を建て、もつて各建物間に相當の空地をつくつて被害率の低下をはかると同様の處置方法である。可燃性材料をもつてする低小なる木造家屋の密集は爆撃に好目標を與へるものである。世界的大動亂に到らんとする一步手前において速かに爆撃目標の不壊化をはかこそ總力國防の最も必要とするところである。(昭和十六年九月十日工業新聞「工業春秋」所載)

九十九 米國の參戰近接とわが覺悟

吾人はA B C Dの對日包圍陣に脅威を感じるものにもあらず、したがつてルーズベルト米大統領

領ならびにチャーチル英首相の洞喝演説にも膽を冷すほどの臆病者でもない。すなはち敵性國家群の如何る言動によつても微動だもしない決意を以て對處するものであるが、心構へが如何やうにできてゐても現實の總力戰體制が完備し臨戰體制が十二分に整はざるものありとすれば、言行一致の良果を得ることができない。

世界總力戰にのぞむべき國民大衆の心構へについては政府當局ならびに大政翼賛會關係者より屢次教説さるゝところがあり、國民のほとんどすべてがその心得を持つてゐることは何人も疑はないのであるが、しかしながら實際に世相の表裏を觀察するならば、眞に物心一如の文字通り完全なる準備を了してゐるものが果して幾何あるだらうかを疑はざるを得ない。こゝに言ふは易く行ふは難しの憾み深きものがある。

わが國が今日のごとく敵性國家群より經濟封鎖を受くるであらうことはすでに數年前より豫期されたところであり、それがために日滿支經濟ブロックよりひいては大東亞共榮圈確立の不動の國策が樹立されるに至つたのである。したがつて現在の經濟封鎖が緩和されるであらうことを期待するとき考へ方は全然放棄さるべきはもちろん、經濟封鎖は今後ますます強化される覺悟を

なす必要がある。かりに一時緩和さるゝことありとすればそれは近き將來なほ一層強化するため
の手段としてなされるかも知れないが。根本的に對日融和を策するものと誤解してはならない。

ドイツを崩壊せしめ、ついでわが國を亡さんとする世界陰謀團の謀略は一喜一憂わが國民の思
想を混亂に導き戦はずして勝つゝの戦法に出づるものであるが故に、物心兩面にわたり水も洩らさ
ぬ臨戦體制の整備が要請される次第である。業として物資の生産配給に携はるものはいふにおよ
ばず、一般消費大衆もまた最悪の事態すでに至れるの覺悟をもつて世に處せられんことを切望す
る。(昭和十六年九月十五日工業新聞「工業春秋」所載)

百 至妙なるかな、思想戦謀略

アメリカ大統領ルーズベルト氏がローマ法王ピオ十二世に對しアメリカ參戰を正當づけるため
に「正義の戦」なる法王の聲援を要請した事件は一場の喜劇として取扱はれてゐるやうである。
しかし多少とも心を國際思想戦の研究に傾けつゝある者にとつてはアメリカ大統領のこの要請は
如何に彼が思想戦謀略にたけてゐるかを物語るものとして輕々に見逃してはならないことがらな

のである。

由來總力戦の戦はれつゝあるところ、そこには如何なる手段方法にしてもそれが國家總力戦完
遂に役立つかぎり一事一物をも捨て去ることを許さない憲法が存在する。もし一些事なりとして
輕々にある手段なり方法なりを採用しない場合ありとすれば、それは大堤を破る一蟻穴の作用を
なすであらう。アメリカの富と力とをもつてしてもし爲さんと眞に欲するならば爲し得ざるもの
なき實力の國にして、しかもなほローマ法王を思想宣傳戦に利用せんとするに至つてはその用意
の周密さに驚倒せざらんとしても能はざるものがある。

こゝにおいて吾人はムツソリーニ首相と法王との間柄について回想する必要がある。ム首相の
フアシズムに對する法王の思想的不和は今にいたるも結んでとけないものがあるやに傳へられて
ゐる。兩者の思想的間隙を利用して米大統領が法王に對し「正義の戦」なる思想的印授を要求し
たことは、イタリヤにとつてはアメリカから一種の電撃的思想攻撃を受けた事になるのである。
蟻穴は何時大堤崩壊の因となるかも知れない。

道途傳ふるところによればわが國においても情報局を改組向上せしめ宣傳省となさんとの議あ

りとか。宣傳省設置の企畫必ずしも悪くはないが、わが國の從來の思想的措置の實際に徴して、形式的な機關の整備にともなふごとき内容實質を充實するを得るや否や大なる疑問がある。宣傳省設置以前に設置後の機能發揮の能否を先づ研究し決定し置く必要がある。アメリカ大統領の思想的謀略的の巧妙さに感ずるところあり、書して以て大方識者の省察を切望する次第である。

(昭和十六年九月二十一日工業新聞「工業春秋」欄所載)

百一 圓域貿易の特殊性を強化

わが國の外國貿易は第三國通貨による決済部分はほとんど消滅して圓爲替決済の可能なる部分のみとなつた。大東亞共榮圏の建設は未だ中道にして完成をみてゐないが、現在の關係の圓域貿易は泰、佛印にまでおよんでゐるがゆゑに、これを充實強化することによつて第三國通商の缺を補ふことが不可能ではない。

日滿兩國の特殊關係は支那、佛印、泰と我國との關係に比して霄壤も音ならぬものがあり、この兩國間の通商關係を第三國間同様のまゝに放置することは日滿兩國の關係の特異性に照して看

過するを許すべきではない。日滿特惠關稅設定説は滿洲建國以來しばしば唱へられたところであるけれども、今日まで實施をみるに至らなかつた理由として、アジア大陸における國際的門戶開放、機會均等の原則に對する侵犯が掲げられたのであつた。

しかしながら上述の原則を掲げて各國に先んじ、わが國の對滿政策に横槍を入れた英米兩國は、ともにわが國との通商條約を廢棄しかつ資産凍結令を發してわが國との經濟的修交に終止符を打つた國であるがゆゑに今さら日滿の特殊關係に批判を加ふるの資格なきものといはなければならぬ。また獨伊その他の締盟國はもとより爾餘の敵性國家にして日滿の特殊關係に反對する國があるとも覺へない。したがつて今において敢然日滿特殊關稅を設定して、兩國の通商關係を理想的狀態に持ち來たさなければ、何時の日かこれを實行する機會を捉へ得られようや。

日滿通商の特殊化はひいては近き將來において支那乃至泰、佛印に對しても同様の特殊關係化を誘導するものであり、わが國の國防國家體魄確立上、絶對必要なこれら諸國との長短相補の關係を保持するうへにおいて、敵性第三國の思惑などに拘はることなく斷乎としてこれを行ふの勇を當局に望んでやまない。(昭和十六年九月二十三日工業新聞「工業春秋」所載)

百二 官界の割據主義を排す

國家非常時に際しては朝にあるものも野にあるものもすべておのれを空しくして一億一心の團結によつて時艱克服に邁進しなければならぬにもかゝらず、やゝもすれば自己の擔任する職務の繩張りを固守し、または擴大せんがために他と衝突を來たし狭少なる天地内に鬭争を繰返すものあるは眞に慨嘆に堪へない事柄である。自己の職務に忠なるは結構であるが、他人の言を容れ他の獻策立案を寛宏なる氣宇を以て採擇し、自他相ともに協力して一層の善果をあぐるに努めるこそ國民相互のなすべき道であると信ずる。殊に官界にあつてはこの風潮の盛んなることを望んでやまないのであるが、實際は全くこれに反するものあるは何人も遺憾とするところである。

自由主義經濟時代ならばとにかく、今日のごとき經濟統制が全面的に施行されつゝある時代においては官界に在るものは事實上の指導者であり、強力なる總動員法による權能を有するものであるがゆゑに、それらの人達の言動が國民一般に與ふる影響は思ひ半ばに過ぐるものがある。現在の經濟統制が多くの違反者により侵犯されつゝある、その原因は多々あるであらうが、その中

の一として官界の繩張り争ひを數へることが出来る。現に筆者に對しある統制違反者が語つた話によつても、民心弛緩の原因として官界割據の争ひを指摘し得るのである。

もつとも行政省の機構が細分されてゐるところではかゝる争鬭は起りがちであつて、例へばアメリカの戰時經濟運営を擔當する生産管理局と物價統制局とが自動車の生産制限とか價格統制とかその他の事項に關聯して繩張り争ひを起し、アメリカ國內の問題となつてゐるが如きは、明かに行政分擔の機構が巧みにできてゐないところから生ずるものではあるが、割據主義の好例證となすことができよう。

或者は民主主義のアメリカでさへさうだから、わが國のごとき官僚主義の國ではもちろんのことだといふけれども、アメリカは米國自身が求めて戰爭の渦中に入つて火中の栗を拾ひながらアハよくば世界制覇の野望を達せんとする貪慾心より非常事態をつくつたのであるが、わが國は全く事情を異にし國家興亡の岐路に立つ眞の非常時に際會せるものなるをもつて、官民ともに眞劍に一億一心自他一如の心境において國家に御奉公せんことを望んでやまない。(昭和十六年九月二十九日工業新聞「工業春秋」欄所載)

百二 物資缺乏現象を解消せよ

我國における物資缺乏の現象を觀てかゝる現象の發生原因に關し深き省察を行はない敵性國家群においては、我國の經濟的破綻近きにあるとして經濟鎖鎖の包圍陣を益益強化しつゝあるが、かくの如き敵性國家群の包圍陣を突破するについては、不自然且つ不必要なる物資缺乏現象の速かなる解消を圖ることが肝要である。我國の國際的地位を強化し敵性國家群の迷夢を醒す上からばかりでなく、國內一般民衆の不自然且つ不必要なる不安人氣を解消せしむるためにも是非共採らざるべからざる方策であると信ずる。

最近問題となれる主婦達の買物行列を解消せしめるために種々の方法が研究され且つ實行に移されてゐるも、有效適切なる方法がほとんど無いと云つてもいゝほどで、依然として買物行列が解消しさうにもない。それは結局水源を清めずして末流の濁を去らうとするところから生ずるものであつて、根本的に物資の市場への出現を潤澤ならしむる方法を講ずるにあらざれば塞源的效果は期待出来ないと信ずる。

今日の物資缺乏の偽裝現象は經濟統制の不手際から生ずるものと、一般購買者の心構へから生ずるものとの二つに分別することが出来る。後者に屬する者は全く個人主義的なものであるが、しかし又一面一家の主婦達の家政擔任者としての責任上、意圖的ではないけれども、思はず知らず利己的行動に出づるものと推測出来るのである。かゝる心理的原因に對しては國民思想動員の部面を受け持つ大政翼賛會などの出動によつて善導の方法を講ずべきであらう。しかるに前者に原因するものは政府當路の善政主義によつて容易に是正し得るものであり、徒らに法規に拘泥し面目にこだはり事態の改善を遅らせることなくば速かに効果をあげ得るものと考へる。

勿論民間經濟人の時局即應の心構へ全からずんば政府當局のみの片務的善政によつては全面的改善の不可能なるは明かであるが故に、官民一致の協力を必要とするはいふを俟たない。國際間の不安濃きとき國內の不自然かつ不必要なる經濟的不安現象を解消せしめるために朝野全體の反省と協力を切望する次第である。(昭和十六年十月六日工業新聞「工業春秋」所載)

百四 買物行列解消の二方法

買物行列は物資缺乏現象中の最も世紀末的な現象であつて、一刻も速かに解消を圖るべきであるが、過日の本欄に於て論ぜざる如く一家の主婦の責任遂行の義務觀念と結びつき、容易に行列の解消を見得ざる實情である。従つて之が對策は一家の主婦達を安心せしめ得る方法を探るにあらざればその効果を期待する能はざるものと思ふ。

最近に至り政府は中小商工業者の現状維持的な維持育成の舊方針を放擲して、積極的な整理統合に着手したるも、政府の意圖する目的に合したる資格を有するものを整理統合により必要員數だけ得ることはきはめて困難であり、多數の不合格者を出すべきは、今から明かに察知し得る處である。従つて、轉業不能の人達に對し、單に涙金を與へて遊び暮させるよりは、之等の人々に適當な職を與へて、自力生活の途を拓かしむるこそ、當に政府の採るべき方策であらう。

冒頭述べたるごとき買物行列をなすことにより、主婦の家政に當るべき時間が極度に浪費され、かりに所要物資を購ひ得たとしても家事全般に亘つて必然的に何らかの手落ちなり缺陷を生

ずるが故に彼此差引して得る所が失ふ所に足らざる結果を來すものと思はれる。殊に近時のごとく多産を奨励し健康兒を育成せんとするならば、一家の主婦に對し無益の肉體的勞苦を経験せしむることは努めて避くべきではなからうか。

かゝる家政的にも國家的にも多大の損失を招く買物行列を解消せしめ、而も同時に一部失業者に自力生活の途を與ふるために、各町内會においてその町内の會員の生活状態に應じ、適當なる員數の共同買出係を雇傭し、各家庭の必要量に對し公正なる査訂を加へて必需物資の獲得を不安なく成し得せしむる方法を採用すべきである。それ等の人々を收容すべき場所或ひは通勤制度の可否などについては、實際に即して如何様にも解決の途が存するものと考えらる。速かに筆者提唱の方法を採用して、買物行列の解消を一刻も猶豫するところなく實現せんことを望む。(昭和十六年十月十三日工業新聞「工業春秋」所載)

百五 經濟機構改革と政治的温情

政府は近時頻りに配給機構の再編成をはかりつゝあるが、それがため多數の轉業先なき失業者

を出すおそれが多分に存する。もちろん政府の意圖する處は生産擴充のための要員を得るにあるは明らかであるけれども、果してその意圖に合する人々を摘出すること能ふや否やについては多大の難問が存するのである。否生産擴充の要員として不適格であるばかりではなく類似業務への轉出に關聯しても必ずしも適格者ならざる失業者群の發生が見出されるのである。

最近東京、大阪その他大都市における中央市場の取引機構改革に伴ひ仲買人の廢止が斷行されたが、そのため數千名の仲買業者およびその使用人が廢業又は轉業の餘儀なき憂目に遇つた。之らのうち廢業したものは多くは相當の資産ある人々であり又他に適業を營み得或は營みつゝある人であるが故に問題とならないが、卸業者又は小賣業者の團體に收容されたものは仲買人的職務には適當して居るけれども卸賣會社又は小賣商業組合の事務員としては不適當であり、永くその職に止まり得るや否やは相當疑はしいものと思はれる。従つて第二回の轉業が近き將來それら不適格者達自身によつて行はれるものと推測されるのである。かゝる轉業に繼ぐ轉業は轉業者自身の不幸ばかりでなく國家的見地よりするも非常な損失である。

政府當路にあつては斯の如き轉業者の餘儀なき犠牲者を出すことが豫想される場合には、あら

はじめ永久的或ひは少くとも半永久的な轉業先を作り與へるだけの細かな温かい心遣をなすべきである。井野農林大臣の聲淚俱に下る訓話によつて仲買人達の犠牲的精神が彌が上に昂揚したために、さしもの大改革も平和裡に運び得たが、其の有終の美を濟すがためにもそれ等の人達の生涯の運命に悲劇の起らざるだけの配慮が望ましいものである。これは單に六大都市中央市場仲買人の問題だけでなく百般の經濟機構改革に係はる重大問題として政府當局の省察を切望する。
(昭和十六年十月二十一日工業新聞「工業春秋」所載)

百六 國防政治體制の完成を期す

東條内閣の成立、しかして首相の陸軍大臣および内務大臣の兼攝によつて國防政治體制に關し特別な意義を付し、これをもつて能事畢れりとなすものが相當多いが、筆者は必ずしも然らざるものと思惟するものである。あるものは首相が現役大將であり陸軍大臣であり内務大臣であるがゆゑにいはゆる軍政内閣の實ありと説き、戰時内閣としてはかくあるべしと主張する。いふところの軍政内閣とは如何なるものであるか、その内容が詳説されてゐないので理解のいたし方もな

いのであるけれども、常識的に考へて戒嚴令下の眞の意味の軍政とは全く異なつたものではあるが、軍の意圖が直裁簡明に政治のうへに表現され得るとき内閣組織を意味するものと推測される。

もしかゝる意味の軍政内閣ならば首相の陸、内兩相兼攝を必要とせず、從來の儘の組織でもその運営の妙によつて十分目的が達成されるはずである。萬一政治の一元化が身分的に企圖されるのであれば陸、内兩相ばかりでなく、海軍、外務、拓務、大藏等もひとしく首相の兼攝としなければならぬであらう。イタリアのム首者の兼攝の例に徴するもかくのごとき方法が最上と考へ得られるのである。しかし今日のわが國の實情よりみてかゝる兼攝によつて政務を處理するには餘りに政務が多端であり到底各省政務の十分なる運営を期待するを得ない。恐らく次官による政務處理によつて大臣兼攝の實が空に歸することと思はれる。

眞に時局に即應せる國防政治體制を完成せんと欲するならば總理大臣の權限を強化して陸海兩軍に關する政務の一元的統率を可能にし、これに配するに經濟と文政を各自綜合的に運営するだけの權限を有する二大臣をもつてし、その配下に各省を分置し、これにそれぞれ行政長官をあて

がふべきである。斯して政治の迅速なる實行性を確保するならば、ほど國防國家の政治體制として満足すべき組織を完成し得るであらう。政治力の集結をはからんがためには偉大なる少數の政治家によつて國政の運用が可能なるごとき組織を必要とすると同時に、政治と行政事務との整然たる分別ができなければならぬ。現在のごとき事務大臣に終始する大臣は如何ほど數多くとも眞の政治を行ふを得ないであらう。(昭和十六年十月三十日工業新聞「工業春秋」所載)

百七 鐵道運賃引上に就て

鐵道省では近く旅客運賃の引上げを行ふ豫定であり第五回物審總會に諮問可決答申されたが、その理由とするところは購買力の吸収と旅客制限とが掲げられてゐる。鐵道運送業が營利經濟的經營であることは云ふ迄もない。かゝる營利企業が例令國營の形を採りつゝあるとは云へ、それが政治性を以て運賃の變更を行ふことは再考を要する事柄ではなからうか。

若し購買力の吸収を價格引上げの理由として得るならば凡百の商品價格を引上げることが購買力の吸収に役立つとの口實の下に物價昂騰を主張するを得るであらう。政府經營の企業なるが故

に特殊の政治性を主張し得るとするならば國策順應の美名の下に公營私營の交通運輸業も亦同様の主張をなし得る筈である。政府は一方に於て低物價政策の堅持を唱へ且つ實行しつゝあるにも拘らず他方に於て政府自ら物價引上げを敢てなさんとしつゝある事實は民間人の心理に如何なる影響を與へるであらうか。商工省物價局と鐵道省とは役所が全然別個のものであると云ふならば亦何をか云はんやである。

旅客制限の方法は必ずしも運賃引上げの方法によらなくとも目的を達し得るはずである。僅少率の運賃引上げを行ふも絶対に制限の目的を達し得ないであらうことは現在の購買力の實績をみれば明かに理解し得る處であり、眞に制限の目的を達せんと欲するならば少なくとも十割程度の引上げを行ふ必要があるであらう。かくのごとき無謀なる引上げは到底行ひ得ないはいふ迄もない。従つて中途半端の引上げを行ふよりは寧ろ鐵道益金の一般豫算における歳入への繰入れ額を減少して不足財源を捻出すべきであらう。低物價政策と矛盾する方策を政府の一部において行はんとするを遺憾として當局の省察を切望する。(昭和十六年十一月二日工業新聞「工業春秋」所載)

百八 増税の時局的意義

今回の煙草の專賣價格引上げと消費税並に物品税の増徴が、時局柄として餘剩購買力吸収による悪性インフレ抑壓のためなることは首肯し得るも、一面その時局柄としての國民道徳性が従來の増税による歳入増加を目的とする限り減却される恐れが多分に存すると思ふ。時局の道徳性から云へば遊興飲食とか酒煙草の嗜好などは禁絶すべきであり、増税の目標とする所は租税の増収に非ずして増税の皆無に歸するに在りと云はなければならぬ。然るに政府は六億圓の増収を期待してゐる點より見て、依然として酒煙草の消費とか遊興飲食の益々盛んならんことを冀求せるが如く見ゆるのは如何なる理由に因るものであらうか。

今日の時局において浮動せる餘剩購買力を吸収すべきは云ふを俟たないのであるが、その吸収方法が依然として自由主義經濟時代においてみられると同様の財政原理によつて裏付けられ租税増収が唯一の目的なるかのごとき表現において行はれることは遺憾至極である。百億二百億といふ數字をもつて取扱はるゝ現時の財政において僅かに五、六億圓の租税増収を目的に煙草の値上

げとか消費税一般の増徴をなすことは一考を要することと思ふ。歳入増加を目的とせず真に時局に即應せる國民消費經濟の形態を造出せんと欲するならば別途の方策によつて成し得ないではないか。

政府は今回の煙草値上げとか増税とかは全然低物價政策と牴觸しないものゝ如く考へてゐるやうであるが、純然たる俸給生活者の經濟圏においては別問題であるとしても、苟くも生産配給の業に携はる國民の大部分のものにとつては、かかる値上げとか増税とかは一種の物價騰貴と同様であつて、直接間接に一般物價水準昂騰の原因として作用するに至るであらうことは疑ひなき所である。

公定價格の存する所そこに物價水準の上昇は起り得ない筈であるけれども、品質規格に對する強力なる統制が行はれてゐない場合、品質規格の見えざる低下によつて支出増加の埋合せをなす財源を得んとするは必然であり、形式的低物價が實質的高物價によつて累せられる惧れがある。

吾人は敢て絶對に煙草値上げと消費税増徴に反對するものではなく、ある意味においては賛意を表するに吝でないけれども、更に深く省察を加ふることによつて時局の深刻性に副ふ意義を見

出さんことを當局に熱望するものである。(昭和十六年十一月四日工業新聞「工業春秋」所載)

百九 見えざる支配者を捉へよ

自由主義的な政治經濟界においては輿論なる見えざる支配者の手によつて政治と經濟が運営されてゐると云はれる。また反對に統制的な政治經濟社會においては支配者は民衆の前面に押し出されてゐると云はれる。事實に照してヒットラーやムツソリーニは民衆の前に雄姿を現はして劇的效果をあげてゐるのと對蹠的に、英米の眞の支配者は自らの姿を民衆の前面にあらはさずして自らの手によつて捏造したる輿論なる偽瞞的手段によつて民衆を統率してゐる。チャーチル英首相やルーズベルト米大統領は眞の支配者たる見えざる手によつて操られつゝある人形に過ぎない。

日本人は元來愚直な性質を有し形式的に理路整然たる偽瞞の前には容易に首を縦に振る傾向がある。本來英米兩國は外見的には二つの獨立國であるけれども内實は一つの聯合國家を形成し兩國の政治經濟の總ては見えざる同一支配者によつて統率されてゐるのである。従つて英米兩國を

分離して政治外交の對象として取扱ふ事は英米兩國の偽瞞の陥穽に引掛かることを意味する。我國の賢明なる外交當事者は勿論かゝる認識錯誤に陥る筈はないと信ずる。しかし日米交渉は實質的には日英米交渉であるといふことを忘れはしないかと懸念される節がないでもない。日米交渉の結果が英國側の策動によつて骨抜きとならざるやうの用意が望ましい。

なほ一層望まじきはこの際寧ろ率直に見えざる支配者との直接交渉によつて局面打開の轉機を捉へることである。太平洋の平和が破るゝや否やは歴史の必然の運命の神の手によつて決せられるところであらうが、我國是たる大東亞共榮圈確立の途上に横たはる障礙を突破するがためには、敵性國家群の偽瞞のベールをおし別けて、その奥の鎮座する見えざる支配者の胸底深く秘められたる方策を叩く以外に拔本塞源の解決の妙法とてはないであらう。(昭和十六年十一月十七日工業新聞「工業春秋」所載)

百十 國運分岐の十字路

先般の臨時議會における宮澤代議士の舌禍事件は多くの時局的示唆を吾人に與へた。舊政黨政

派の對立的感情問題とか、翼賛議員同盟に對する反感とか、政黨的議員の存在に對する打倒謀略とか、その他幾多の事柄が宮澤問題をめぐつて看取されるのであるが、事の真相を的確に把握し判斷するならば、議員諸公のすべてが眞に時局の意義を理解しをらざるに根ざしたるものと言ふことが出来るのである。

宮澤氏の述べたる言論中如何なる點が問題の中心をなすやを問ふことを敢てしないが、時局に對する心構へにおいて聊かの樂觀も許さざるは何人も知悉するところであり、去る廿五日の日比谷公會堂においての賀屋藏相の演説中にも徒らなる樂觀の戒むべきを縷述されてゐる。樂觀と云ひ悲觀と云ふも、等しく國を憂ふるの赤心から出づる點については何等甲乙の差はないのであるけれども、こゝに問題とすべきは國家目的達成の手段調達に關する樂觀悲觀の對立問題にあらずして國家目的達成それ自體の能否に關する見解の對立である。

いふ所の如英米派とか英米依存主義者かゞ未だ我國に存在するや否やの問題は別として、大東亞共榮圈確立の國策遂行について前途を悲觀し對英米妥協主義によつて一時を糊塗せんとするものありとすれば、それはわが國の千年の運命を英米の手に售るものと斷じなければならぬ。目下

のわが國における最高政治の問題は一にこの點に存するのであつて、國家目的達成可能の信念の下に國民一億相率ゐて自肅自戒し萬全の協力に忠誠を致すならば、財政手段の如何のときは問題とすべきでなく、國民一致協力によつて自然の裡に容易に解決し得る事柄である。

議員諸公のみならず國民一般が國運の岐路に關する真相に徹し樂悲の兩面觀を最高の政治問題にかゝはらしめて判斷するにあらざれば時局に對處する眞の立場を把握するを得ないであらう。議場においても工場においても將又店頭においても我ら國民の念頭から一瞬と雖も去つてならぬのは、國運分岐の十字路に立つわが國の前途に關する確なる判斷であり、この重大事に對する樂觀悲觀の態度決定が皇國永遠の隆替を支配するものなることを銘肝し枝葉末節の言議を争つて敵性國家の侮を招かざるの覺悟が必要である。(昭和十六年十一月二十七日工業新聞「工業春秋」所載)

百十一 進學制限を撤廢せよ

中等實業學校卒業生の上級學校への進學希望者を一割以内に制限せんとする文部省の企圖は學

生生徒の向上心を抑壓し國家發展の原動力の一部を麻痺せしむる愚策中の愚策である。現在までの學校教育においては智育を先にし、德育は殆ど顧みられざる状態であつたにも拘らず、學校の程度の高まるに連れて自から學生生徒の人格向上が行はれてゐた。その證左としては某警察方面に於て調査したところによれば、經濟統制違反者の數は學校教育程度の高下と反比例して、從來の尋常小學校卒業程度またはそれ以下の者において違反者が最も多いと云ふ事實を援用し得るのである。

學問は眞理を教へるものであり科學の眞理は道德の善の徳目と一致するものである。社會生活に於ける矛盾の惱み、即ち社會秩序の維持發展に背反する行動における衝動と反省の相剋に對する人間理性の指導は、社會科學の教ふる眞理に則るものである。従つて在來の個人經營の商店にして教養低き店員のみを使用する方面においては店員の背德行爲が他に比して非常に多く行はれてゐた。勿論高等教育を受けたものゝ中にも徳性の缺けたるものが相當あるけれども、比較的其數が少ないことは明らかである。かゝる事實に照して國民のすべてに高等教育を施したいのであるが社會の實際はそれを許さない。然し成るべく多くのものに高等教育を施す希望を持ち且つ事

實上その希望達成に努力することこそ文教の司たる文部省當局の責務であると云はねばならぬ。

最近經理統制令の發布によつて中等學校出身者と高等、専門、大學出身者との間に劃然たる公的差別待遇の基準が設けられるに到つては何人も中等學校のみで晏如たるべき筈はなく争つて大學専校門の門を潜らんとするであらうことは疑ひない必然の傾向である。文部省當局者の子弟と雖も恐らく誰一人として中等學校にて満足するものはないであらう。我身を抓つて人の痛さを知れといふ諺がある。文部省當局者も自己と自己の子弟に對する氣持を國民一般に滿して思ひ遣りある措置をなすべきであらう。年内卒業期の迫りつゝある際特に記して文部省當局の一考を煩はさんと欲する次第である。(昭和十六年十二月一日工業新聞「工業春秋」所載)

百十二 開放研究室の擴充を斷行せよ

東京及び大阪の商工省所屬工業試驗所には所員の専用研究室の以外に、一般公衆の利用に開設せられたる所謂開放研究室なる設備を夙に公開し、又現實にそれ等の開放研究室を利用して幾多の有益なる民間研究が行はれ來つたのであるが、開放研究室の数が少なく、又それを利用するた

めの費用負擔に耐え得ない篤實なる民間研究者に對する補助制度がないため、十分なる利用が行はれてゐないやうである。

開放研究室の施設は市立工業研究所とか、大學専門學校附設研究室にも從屬して設けらるべきであり、又獨立したる開放研究所の設立も考へ得られるのであるが、しかし研究にはそれ／＼の部門における權威ある専門家の指導を必要とするをもつて、我國の現状に於ては果して獨立の開放研究所を設立するを得るや否や、疑ひなき能はずである。しかしながら少くとも大學、専門學校又は官公立工業試驗所等に出來得る限り多くの開放研究室を作つて、教授又は専門所員の指導のもとに民間の發明乃至改良進歩の研究が容易に行はれ得るに到つたならば、如何ばかり我國の生産力擴充に役立つであらうか。その利益は蓋しはかり知るべからざるものがあるであらう。發明發見は既成理論の應用によつてのみ成し遂げ得るものでなく既成理論の外の理論、換言すれば創造される理論に根據を持つものが多いが故に、街頭科學者の研究は決して等閑に附する譯には行かない。街頭科學者の創意を理論創造の高い使命に結びつけて指導する既成科學者の親切なくば、開放研究室の使命達成は不可能である。獨逸の工業科學乃至は科學的工業生産技術の向上發

展は、實に創意の尊重に深き根源を有するものであつて、決して陳套なる既成理論によつてのみ産み出されたものではない。

開放研究室の利用は、しかしながら常に官公立の諸施設に附帯して考へられるばかりでなく、民間の工業會社の研究室の開放も亦考慮さるべきではなからうか。勿論營業機密保持の觀念の強い民間會社が、果してかゝる公開的態度に出づるや否や疑問であるけれども、時局の要請に顧みて進んで開放的奉仕的態度を採らんことを熱望してやまない。(昭和十六年十二月八日工業新聞「工業春秋」所載)

百十三 世界永久戦と國民の覺悟

大東亞戰勃發は我國を世界永久戦の舞臺に登場せしめるに至つた。否、我國が大東亞戦に出陣することによつて世界戦争を永久戦の性質にまで變化せしめたと言ふべきであるが、國民の殆ど全部が未だ或年月を限つた意味を持つ長期戦に臨んだに過ぎないとの考へを持つことの危險性について國民に警告を發したい。

緒戦に於て終戦を豫定し得る如き大戦果をあげ得たことは、一に御稜威の下誠忠無比の海陸將兵の決死の勇戦に因るは今更喋々を要しない事柄である。併し假令一部軍需資材の缺乏を生ずべきことが豫想はされ得るけれども、尙全世界の天然資源の過半をその領土から産出し得る米英兩國の富力を以てして、然もアングロサクソン民族の強靱なる忍耐力を以てする反撥力は決して輕々に戦争の終焉を豫断させないであらう。従つて緒戦の大功を終戦一步手前に於て、恰も千仞の功を一簣に缺くが如きことあらしめてはならないのである。

筆者の觀測によれば獨伊勢力圏と米英勢力圏と日本勢力圏の世界三大勢力圏の成立は極めて近き將來において實現するであらうが、この三大勢力圏成立後の各圏間、特に日本勢力圏および獨伊勢力圏と英米勢力圏の二大抗争圏の間の闘争は或限られたる年月以内に解決を見得るものでなく、殊に大西洋ならびに太平洋を相互に挟んでの抗争は到底永久に終結を告げ得ないものと觀測しなければならぬ。しかしかゝる永久的抗争は却つて國民の緊張を要求し安逸放恣の態度を許さず、わが日本皇國の永久の隆昌を保障する作用を營むものである。

ローマ滅亡の歴史を知るものは、外敵の存在が如何に或一國の存立を保全するについで國民

の努力を要請し、禍を轉じて福となすかの實例に接するであらう。我皇國民のすべてが外敵の存在を轉禍爲福のためと觀じ、大東亞の經營に總力をあげて精進せんことを切望せざるを得ない。(昭和十七年一月十二日工業新聞「工業春秋」所載)

百十四 南方皇榮圈統營に關する一考察

茲に冒頭提案したきは共榮圈なる文字を皇榮圈と改めることである。皇國を中心とする共榮圈は即ち皇榮圈であり、圈内各地區の住民は皇道光被のもとに安住の所を得る。その事自體が直ちに皇榮圈の實體たるものである。大御稜威による今次大東亞戰爭の神速果敢なる成果は、戰爭そのものが皇榮圈建設の聖業であるが爲に然るを得るものなるは、宇内誰一人として疑はざる所である。

聖諭を奉戴して皇軍の向ふ所、敵するものなく疾風枯葉を捲くの慨ある神戰にともなふ皇榮圈内各地區の統治と經營の方策にしてよろしきを得ざるに於ては、大御稜威を潰すの不忠を結果するものと言はなければならない。南方諸地方を單なる軍需資材獲得の資源として取扱ふならばそ

れは甚しき誤りである。住民をして各々その所を得せしむるがためには、進んでそれら諸地方の濟濟的不均衡を匡正し、日本本土と俱に確固たる自給體制を整へ得るごとく施策すべきである。

米國が比島を、オランダが東印度諸島を、フランスが佛印を經營したるが如く、各地方を不均衡不具の状態に置いて、本國に隸屬を餘儀なくせしむるがごとき政策は、絶対に排撃せねばならない。少なくとも各地區をしてある程度の自給可能なる體制に仕立て上げ、以て本土を中心とする強固なる結合體を形成せしむべきである。

勿論、占領當初に於ては、皇榮圈内自給必要量を超過する生産過剩の物資の存するがため、一時的に不況を來たし、或ひは住民中にある程度の失業者を生ずるかも知れないけれども、これが救濟は各地區ごとの自給體制をはかることによつて逐次匡救さるべきは疑ひなきところであり、また斯くするがために萬全の努力を拂ふべきである。かつまた今後、無限の向上發展の實現を見んと欲するならば、指導的性格を完備せる内地人を、極めて多數に現地へ送り出し、原住民と協力して眞に皇榮の途を開拓すべきではなからうか。(昭和十七年二月二十三日工業新聞「工業春秋」所載)

百十五 純粹國民經濟學原理大綱 (未完稿)

第一 國民經濟の一般的概念

在來の經濟學に於ては、經濟は或特定國の國民に關するものとして取扱はれず、無國境的國際人を全人類の形成する國際社會の最小分子とし、かゝる無國籍者が何等の國民的理想なくして生活する、その生活の物質的部面に係はるものとして取扱ひ來つたのであつた。併し乍ら、現實の吾人の經濟生活は、斯の如きものではなく、明かに或特定國の國民としての生活部面に於て營まれて居る。此の現實に眼を閉じた經濟學は、眞の經濟學でなく、何等かの意圖の下に構築されたる、思想謀略の手段でしかないと言ふも過言ではなからう。

茲に於て、吾人の經濟生活に關する科學たる經濟學を、眞の姿に於て成像せしめるために、著者は純粹國民經濟學なる題目の下に筆を執つて、章節を逐つて、國民經濟の純粹概念の礎石の上に斯學の殿堂を大成せんと欲する次第である。

第二 國民經濟の意義

國民經濟とは或特定國の國民が物質的手段を驅使して、國家目的達成に共同して貢獻せんがために、相互貢獻の組織體を言ふ。換言せば、或特定國の國民が共同目的達成のために物質手段を相互貢獻關係に於て、驅使するにつき形成する組織體が國民經濟である。即ち、國民經濟は物質手段驅使に關する國民的機構であり、國民の各個はその形成する機構の運營者である。

國民としての各個人は、最早單なる一生物としての人間ではなく、國家の民人として、國家目的達成のために、相互協力關係に於て立つものである。各個人が孤立して、國家目的達成による國家的福祉の享受によつて、各個人の福祉が得られるのである。各個人が孤立して、國家目的の線に沿はずして、その生活の保證を得ることは不可能である。殊に分業交換組織の發達せる國に於ては、國民各個の相互の關係は、國家目的達成てふ共同目標に向つて集結されるために、相互貢獻關係に置かれ、分離孤立を許されない。即ち、相互貢獻によつて共同貢獻の實を致すの外ないと言ふべきである。而してかゝる共同貢獻のための相互貢獻關係なる經緯の生み出す機構、その機構は従つて

又物質的手段を國家目的達成のために最も有効に驅使するための機構である、その機構が、自から國民經濟と呼ばれる所のものであるべきは、説明の要なきまでに明かである。

人類を各個孤立のものとし、各個人独自の生活に於ける福祉の追求が、經濟生活の理想であるとの個人主義教理は、非國家的經濟人を産み出し、世界制覇を企てる或外國の手先となつて、自國をその外國の從屬國乃至は直轄領土として賣却するを意としない、國民を育成するに到るであらう。加之、個人主義は、國民相互の關係を利己的關係と看做し、相手方の犠牲に於て自己の利益を圖るに最も秀でたるものが、時代の勝利者として同胞國民に君臨するを常道と觀念し、共同目標に向つての相互貢獻關係を全面的に否定するものである。従つて個人經濟の國民的總和を國民經濟と看做す所の、個人主義的な國民經濟なる觀念は、實際に於て個人經濟の個人的累計觀に過ぎないものである。

之に反し、茲に定義する國民經濟は、國家目的なる共同目標への到達のための國民相互の貢獻關係に於て織り出さるゝ組織乃至機構を意味するものであつて、その組織乃至機構の成生發展の過程に於て現象する法則的事實の認識把握と、かゝる法則的事實の歪曲を是正し、矛盾なき眞の

委の國民經濟樹立のための指導原理の定立は、國民經濟學の研究任務であり、此の研究目標を持たざる國民經濟學は、名實相伴はざる似而非なる國民經濟學と言ふも過言ではなからず。

國民各個の現實の生活は、國民各個の責任負擔に於て行はれて居る。従つて物質的手段の驅使は、共同貢獻の手段たると同時に相互貢獻の手段たるに最も適應せる如くなさるべきであり、私有財産制度の尊重されて居る國家に於ては、物質的手段の多くのものが、個人の私有に屬せる關係上、運營者たる國民各個が自己所有の物質的手段を、最も克く共同貢獻の手段たると同時に相互貢獻の手段として利用すべきは言ふを俟たない。而してかゝる物質的手段は、私有、公有、國有の別なく一般に財又は財貨或は物資と呼ばれるものであるが、それ等のものが財であり、財貨であり、又物資であり得るがためには、共同貢獻の手段として、又同時に相互貢獻の手段として、役立つものであるを必須條件とすることも亦、多言を要しない所である。換言すれば、國家目的達成に直接、間接に役立つものである限りの物質的手段のすべてが、財貨として取扱はれ、國民經濟の生成發展に貢獻する役割を演ずべきである。

第三 國家觀と人生觀

吾人は出生前より、母胎内に於てすでに、國民の一として出生すべく運命づけられて居る。それは、無國境的國際人として生誕するとの猶太人的教説にも拘らず、嚴肅なる事實として認識せざるを得ざるものである。従つて、人類なる一般的存在としての自己を意識する以前に、國民の一員としての存在意識が先づ顯現する。又猶一層突込んで考察すれば、國民組織の原核組織とも言ふべき家族乃至家庭の一員としての自己の存在が先づ最初に意識され、次いで國家の組成員としての國家に對する直接的結び付きに於ての自己の存在が意識されるのであるが、それは國民各個の生誕より成年期に到る間の自己存在に對する意識能力に關係する問題であつて、國民としての完全なる資格を論難する資料とはならない。而して國際人としての意識は、寧ろ國民としての意識が完成したる後に於て、國際思想謀略の毒手にかゝつて初めて生ずるものである。之は幾多の事例の實證する所であり、吾人が反省に反省を加ふるならば、必ずや了得する點である。

吾人が國民の一員としての自己の存在を意識し、而して同時に一個の人類としての自己の存在を、否寧ろ自然的存在としての自己の存在を、意識する場合、この二つの存在の一如化の能否が問題となるべきは、言ふを俟たないであらう。自然的存在としての自己の存在の無窮性の希求と現實の朝露の如き人間一生の悲劇性との矛盾を、如何にして克服すべきかの問題の解決策は、古來偉大なる宗教家によつて、深遠なる教理として説き明かされた所である。併し宗教の與ふる解決は、觀念界の所業であつて、現實界のそれではない。

現實に吾人々類の生命の永遠性を確保するものは、家族生活による子孫承繼の事實を外にしては、何物も存しないし、又現實に國家の永遠無窮の存在以外に、吾人の家族生活の永續を保證する何物も存しない。猶太人は國家なくして個人の生活の永遠性を確保しつゝありと言ふも、實際には自己が身を托せる或國の國民を假裝して、その家族生活の承繼に對する保護を享受して居るのであつて、等しく或國家の存在の永遠性に倚賴して居るのである。勿論、第一次歐洲大戰とか今次の世界大戰に於て、幾多の國家が滅亡した事實を看て、國家の永遠性を否定する者があるけれども、それは國民が國家の永遠性に信念を失し、國家を自己の利益の打算の具に供して居たがために、國家喪失の悲運を見たのであつて、然らざる國家は、例へば獨逸及伊太利の如きも、國

家存在の永遠性を確保して居るのである。

我日本皇國は無始の太古より無終の將來に亘つて、永遠無窮の存在が確保され確信されて居る國家であつて、かゝる尊き國家の國民としての吾人の生涯は、そこに確保される所の家族生活と共に、永遠の生命承繼が保證されて居ることを、認識把握せざるを得ないのである。即ち、日本國民としての吾人の自覺生活が、直ちに吾人の人生觀の全容を包攝し實踐せしめつゝあるのである。従つてそこに、國家觀と人生觀の合一があり、國家目的達成への國民の相互貢獻による共同貢獻が、人生悟道の實踐として唯一の途であることが理解される。而してかくの如き認識理解に到達せる國民によつて組織化される所の國民經濟なる機構こそは、矛盾なき眞の姿の國民經濟を示現するものであらう。再言すれば、國家觀も人生觀の一如化せる國民を保つて、始めて國家目的達成のための相互貢獻による共同貢獻の實が擧り、それによつて又始めて、眞の國民經濟が成り立つと觀るべきである。

第四 國民經濟學の一般的概念

國民經濟なる術語の持つ意味は、前項に於て詳述せる如くであるが、古來唱へられたる經濟學の學を經濟學と指稱するに對し、何等反對するものではない。併しながら、現下の我國に於て要求せられつゝある經濟學は、單なる實踐的な指令を列記する所のものに非ずして、國民各個の人生觀と國家觀に深き根底を持つ所の、換言せば國民哲學の基礎の上に樹てられたる所の、深遠なる理論と適切なる實踐指導方策を持つものでなければならぬ。即ち、國民が國家目的達成のためにする相互貢獻による共同貢獻の實を擧ぐるがために必要なる心構と、その心構に據つて實踐さるゝ行動に伴つて生成し發展する機構の方向定立を使命とする、理論的且つ實踐的學問であることが、國民經濟學に對して強く要請されて居る。従つて茲に定義される國民經濟學も亦、之に即應するものでなければならぬ。

國民經濟學とは、國家目的達成のためにする國民經濟の生成發展に關する法則並に原則を研究する科學である。即ち、國民經濟學の任務は、國民が自己がその一員として住む國家の目的とする所を達成せんがために、國民が一致團結して邁進せんとするに當り、國民が營む物質的手段驅使の方法が如何様であり、又如何様であるべきかを研究して、國民の行動に指針を與へる點に存

するものである。唯現象の認識又は現象起生の因果關係の把握のみに止まらず、常にかくあるべしとの指導方策を樹立し、之を實踐に移さしむるだけの現實性を有し、創造性を持つものでなければならぬ。換言すれば、机上の空論の研究に非ずして、國家目的と國民の現實の生活に即する指導理論を研究する學問である。

科學が持つ國家的乃至は國民的意義は、國家並に國民の存立發展の將來性、換言すれば過去の存在よりも現在性並に將來性の尊重に係はるものであつて、存在の創造に關する限りに於て、科學の使命が價值あるものとなるのである。國家の發展、國民生活の向上、それ等はすべて科學の創造性に倚賴するものである。存在の可能を存在の現實にまで持ち來たす科學の創造力によつてのみ、文化の發展が成就する。それは言葉を代へて言へば、理想の實現に外ならない。究極絕對界に到達する迄の階梯の世界に於ける發展は、過去の存在に沈潜することによつては得られぬ。

第五 價格の本質

價格は均衡指標であるが、これは全體的均衡指標として、部分的均衡指標或は個別的均衡指標としての、二つの役割を持つものである。個別的均衡指標としての價格は、國民各個の有する各別の購買力によつて算定されるのであり、全體的均衡指標は國民全體の經濟的生活均衡を目安として決定されるものである。従つて、私有財産制度を持つ國家に於ける全體價格は、國民各個の購買力の相違に従つて、國民各個の持つ個別價格と一致しないのを通常とする。之は個人自由主義社會に於ける市場價格と各個人の希望價格との差異と等しき性狀のものと言つて差支ない。個別價格は、國民各個の持つ購買力によつて算定されるものであるが、その算定は支出均衡原則に據る國民各個の家庭生活設計表又は企業經營計畫表に於て行はれる。即ち、國民各個人又は各企業の収入と支出の振り合ひを基根とし、支出各項目間の支出効果の大小なく均等なる効率を表はす如き企業經營表又は生活設計表上の記録として成立するものである。勿論、分業交換經濟組織の國に於ては、取引の相手方の同様の企業經營表又は生活設計表の作成の仕方によつて、各自己の企業經營表又は生活設計表を修正する必要に迫られるために、個別價格は、國民各個の欲する自儘の形に於て現はれる譯には參らぬのである。又一步を進めて論ずれば、個別價格より

も一步前に全體價格が算定され、それによつて供給物資の價格が表示されるが故に、個別價格は、全體價格を國民各個の希望する方向に修正せしめんとする批判價格の性質を帯ぶるに到る。全體價格は、言ふ迄もなく、國民經濟全體の均衡を考へて算定されるものであるが故に、國家主義的經濟組織體の部分と全體の上下貢獻關係並に部分相互の相互貢獻關係の均衡態勢を考案して算定さるべきは言ふを俟たない。全體價格が均衡を得居るや否やの判定は、國民全體經濟が國家目的達成てふ最高目標への到達に最も克く適應せるや否やに従つて行はるべきものであつて、この最高目標への適應度を、個別價格の個人的性格によつて修正すべきではない。

第六 價格の使命

價格は經濟均衡の指標なりとは、前節に於て繰返し説明した點であるが、國民經濟は一定不動のものでなく、不斷の變化を遂げつゝあるものなるが故に、昨日の均衡は必ずしも今日の均衡ではあり得ない。従つて、價格の變動、それは取りも直ほさず、均衡點の變動を意味するものであるが、かゝる變動の起生は必然的なものとして、容認されねばならない。更に之を國家目的に關

聯せしめるならば、それは國家の發展の線に沿える均衡點の變動と解すべきものである。

上述の解釋に従ふならば、價格は過去の均衡の表示であるばかりでなく、現在の均衡の表示であり、更に進んでは未來の發展的均衡の表示でもあらねばならない。即ち、公定價格による經濟統制の行はれて居る國に於ては、公定價格は、國家の發展、國民經濟の進運を指示する使命を持つものと言ひ得るのである。従つて、公定價格なる全體價格は、國家の發展、國民經濟の進運、換言せば國家的發展的均衡の指標たるべき使命を帯ぶるものなるを以て、その制定と改變は慎重なる研究討議の下に行はるべきであつて、徒らに部分的觀點からの判定によつて爲さるべきものではない。

前述せる使命を果すための一例として、スフ絲の公定價格を採つて言ふならば、現今のスフ絲の如き弱性のものであつては、到底國民衣料としての使命を擔任し得ないものと言ひ得るのであるが、之に改良を加え、假りに從來の生産費に倍する生産費を要するとしても、十倍の耐久力を有するものを生産し得るとすれば、それは結局五倍の機能を有するスフ絲を生産し得たと同様の効果あるものなるが故に、國民經濟の發展均衡を得る上から言つて、スフ絲の公定價格を概算一

倍のものとして良い筈であり、スフ絲の生産額を五分の一に減少しても、國民衣料を充足し得るを以て、そこに全纖維又は纖維製品に亘つて一大革命が生ずるため、均衡の破壊が生じ、それが建設的破壊であるがために、必然的にそこに均衡發展の巨歩が歩み出されることとなるであらう。即ち、スフ絲の全體價格としての公定價格の改訂が、發展的均衡を齎らす動因となり、價格の國家的使命が果される結果となるのである。(昭和十七年八月稿未完成稿)

昭和十八年三月廿五日 印刷
昭和十八年四月五日 發行

(一〇〇〇部)

竹堂春秋時論 奥附

定價金貳圓貳拾錢

認 承 協 文 出
ア 320213

複 製	不 許
--------	--------

著 者

西宮市甲東園松嶺莊

武 田 鼎 一

發 行 者

東京市牛込區早稻田鶴卷町四三六

竹 内 浩

印 刷 者

東京市牛込區早稻田鶴卷町四〇五

守 田 銀 造
〔東東三五七番〕

東京市牛込區早稻田鶴卷町四三六

合資
會社

敬 文 堂 書 店

日本文化協會會員番號一〇九五一九番
電話牛込34)五七三五番

日本出版配給株式會社

配給所

東京市神田區淡路町二ノ九番地

(行印社會式株刷印田守)

終